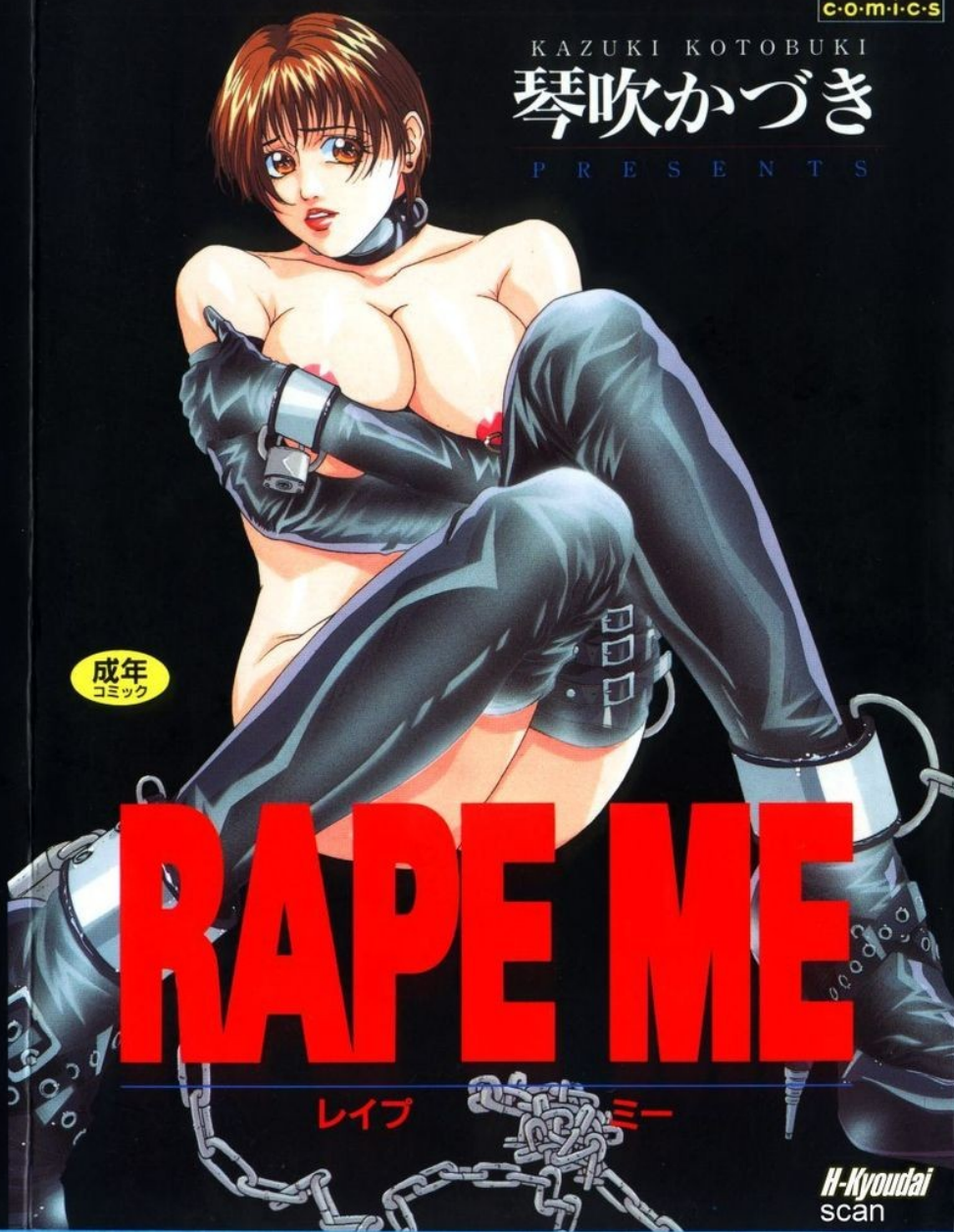


RAPE ME
KAZUKI KOTOBUKI
CONTENTS

序篇	
とげ やいば 『棘と刃。』	5
上篇	
ものおもふひと 『哲学者』	21
E-1	
くらがりのほさま 『闇間に。』	39
中篇	
くだ みづ 『砕けた水。』	55
E-2	
ゆり かご 『PLACE』	75
下篇I	
『翼ある闇』	91
E-3	
Self-Salvation 真夏の夜の夢	105
Interlude	
『Forbidden Fruit』	123
下篇II	
トキメキとキラメキと 求められる全ての応えの中に	141
終篇	
SERENADE	159



成年
コミック

TSUKASA
c-o-m-i-c-s

TC
TSUKASA
c-o-m-i-c-s

KAZUKI KOTOBUKI
琴吹かづき
P R E S E N T S

レイプ
ミー

琴吹かづき

成年
コミック
司書房

RAPE ME

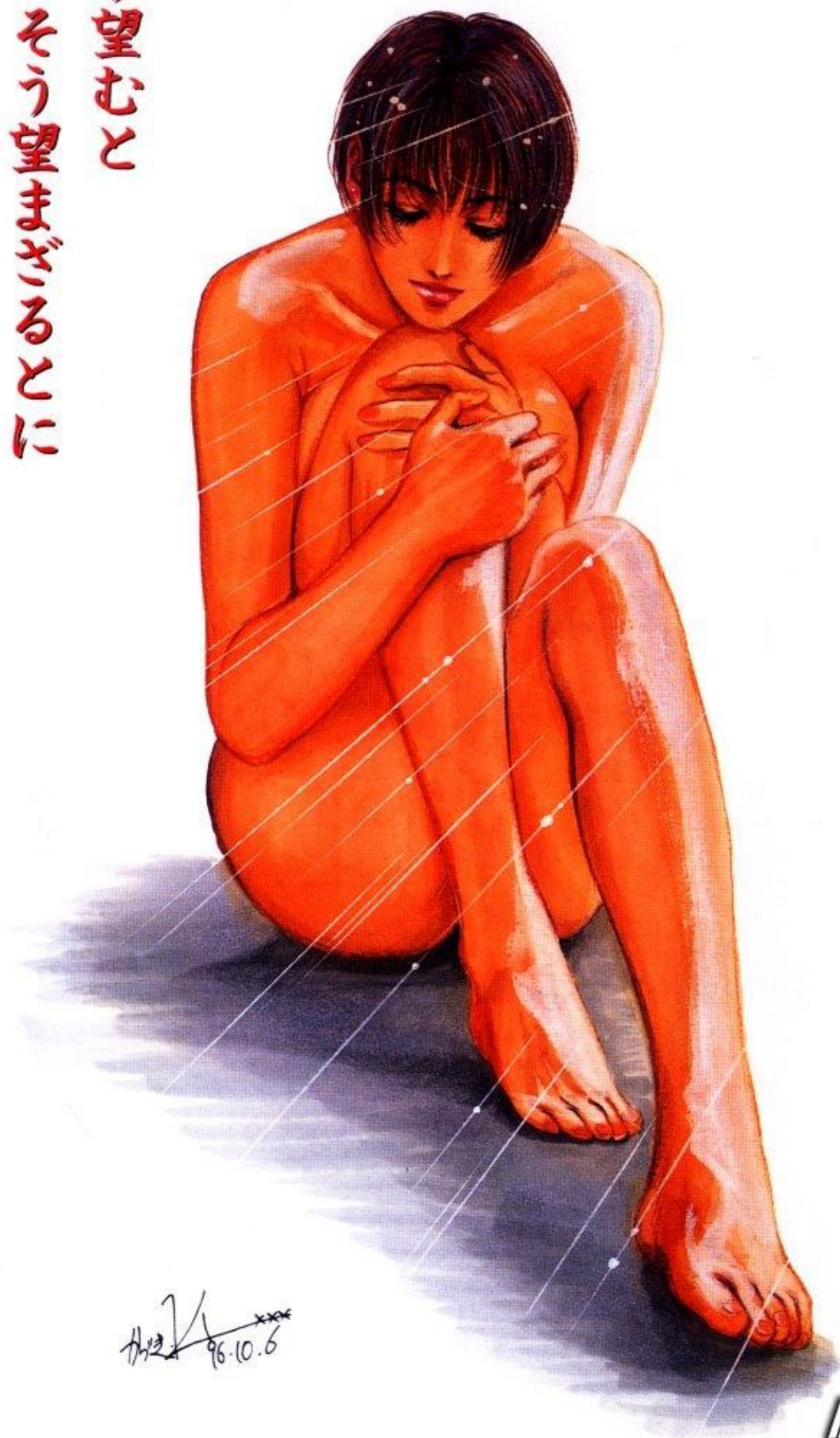
レイプ ミー

H-Kyoudai
scan

そう望むと

そう望まざるとに

かかわらず——。



the 96.10.6

愛の證歌

凶々しき君を證せよ。
その琥珀の美(王瞳を思ふ)。
顔立ちの孤傲の如(その可憐を憐れむ)。
ほこりの~~深淵~~深淵に
決して恢復する事はない
傷みと穿つ、その真を記憶せよ。

ほこり愛す。
再び君に入るは夜(み故に)。
永遠に比処に見えぬ(残酷な故
に)

~~君を愛す~~ 君を愛す。

死に~~あ~~比処より旅立つ
ほこり故に

永久の想、いづれに託さう。

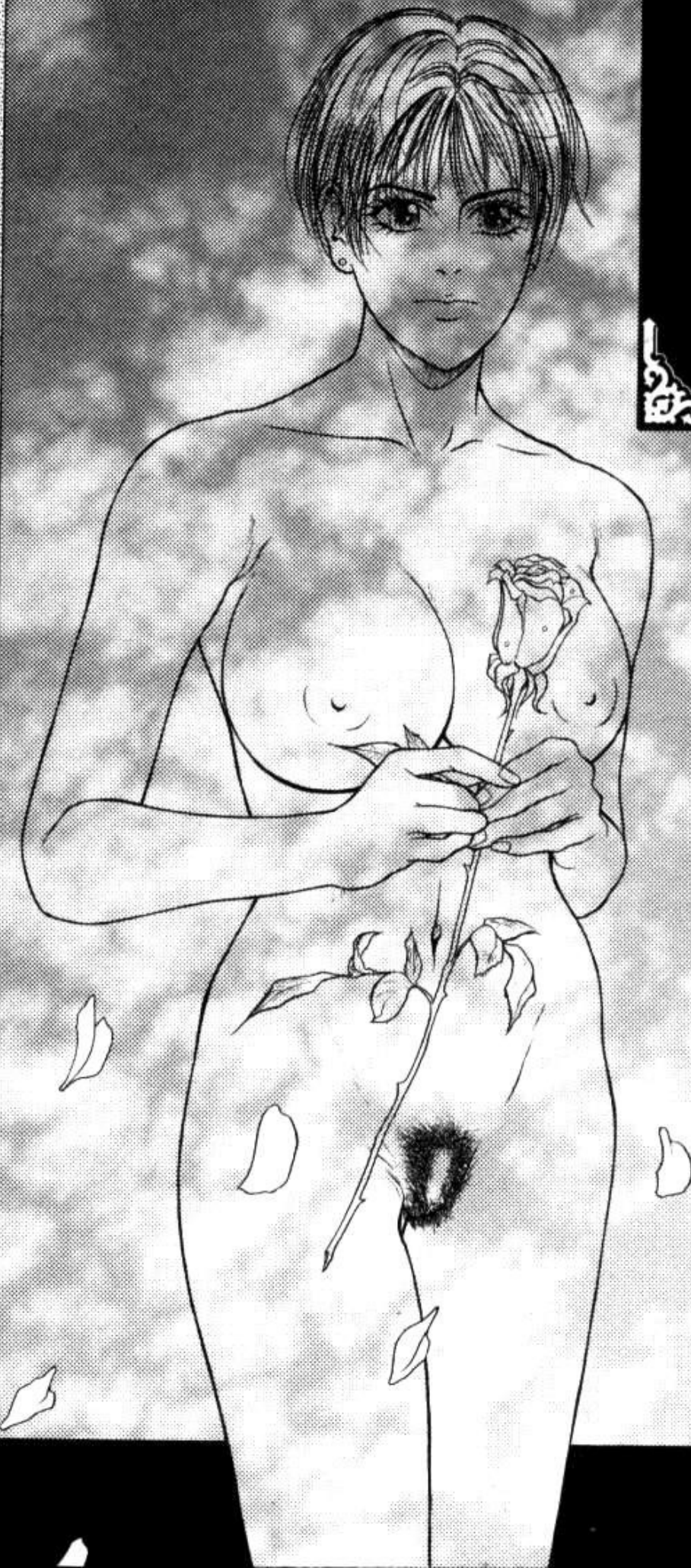
ここに先二度と君に語りたはほこり故に
ここにこの子に語りたは
たが君を愛すほこり故に。



~小口に返るあの子小詩人のトトカ子~

序篇
『棘と刃』

今はもういない愛するあなたに捧げる昏い記憶を封じ込める前の最後の回想——



記録的な暑さを
予感させる94年の
初夏

出逢った場所は
平凡な公園。



あ。



彼女、白道路恵と
私、元橋はじめ……

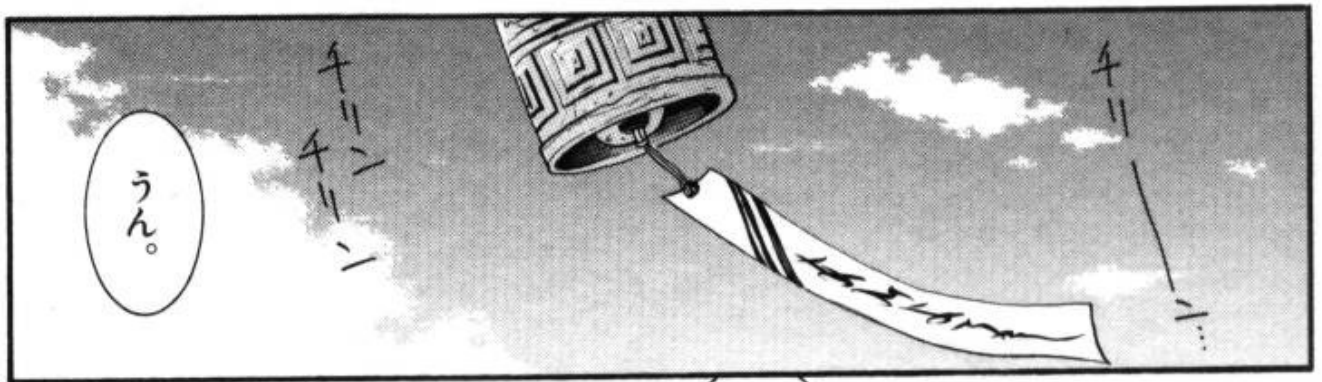
はい、葉

秘密を持った互いの絆に
恋に墮ちるまでの時間は
僅かだった





暑いね。



うん。

チリン
チリン

チリン



それに——

ジュー
ジュー

せつかくだもの
夏の暑さ
楽しまなきや。

だって夏は
暑いから
夏なんですよ。



あたしね。

うん？

クーラー
嫌いな。



あたし恵の汗の匂い好きだしさ。

はじめっ



ね
見せて
メグム



あなただけ
だものね。

ハジメたら...
でも約束だし。



「自分が望むときと望まぬときで相手の望む時と望まぬ時を見せる」
約束。



私の肌綺麗
だなんて言っ
てるの。

不幸な巡り合わせの下
爬虫の肌を持ってしまった恵。





キレイなの
あたし。

こんなブカッコーに
大きくて…

邪魔、けどし
ださいもん…

キミとカッコー



ハジメのお乳の
方がかっこいい
のに
ね♡



んーん。
かっこいいよ
うらやましい。

こんな大きな
お乳。
重ーい♡



ふっふっ

×ゲームで
あんなに
なにか

ねはじめ
ミドリは
出ないの？



ふっ…



…ん…



ね 私にもハジメ
愛させて。



そんなコト
ある訳ない
よお!



また大きく
なったの？



キュークツ
そうねえ。

変わんないってば
ガマンしてた
だけだもん。
ホントだ！



神様の悪質なイヤガラセとしか
思えない躰を持つ私。



メグム

障子は？

大丈夫よ。この離れには私以外のひとは来ないもの。

梅川まがはる

それにこんなコトやあってもう遅いよ。

そーね。



何言ってるのこんなになっちゃって

ハジメってば

それに私知ってるのよ

ハジメがHなコだって

ん…

メ：メグム
こんなの
恥ずかしいよ

ぬる

そんなコト…

あッ

メグム

はッ



出逢つてからひと月…
まだお互いの体^{カラダ}だけに
溺れていられた—。

貪るよつにその夢に
溺れ尽くしてた。



ううん
いいの
ちよっ...

あッ
はッ

そんなに
しごいたら
だめえっ



いいよ
出して
ハジメ

メグムツ
出ちゃう
よオ...

出るトコ
私に見せて

はあ...

はあ...

...っ
んん

あん
メグムラ

だめっ



メグムツ

やあ!

やだッ!

出ちや…ッ!!

あっ

あっ

ホト

は…



ふう…

もお…

メグムの
意地悪っ。



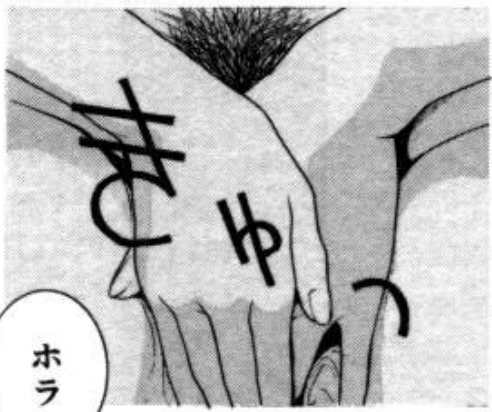
千リリン

千リリン

千リリン

山…
それは
お互い様♡

何の躊躇ためらいもなく
お互いの想いキモチだけに
満たされていた—。



ホラ



ねハジメ

ハイッ



うんそうなの
今度は私の番

エヘ

うんと可愛
がってね♡



びっくりしたよ

メグム…



たくさんお返
ししたげる

ありがと♡

それは奇蹟のような
二つの瞬間の交錯する
至福の蜜月

誓いを交わす約束のような
狂おしい眩暈めまいの季節ひび





ね
元橋さんで
しょう？
三組の。



あ…
ありがとう。



三組にモデルみたいなの
すごい美人がいるって。

あ、本人目の前では
「モデル」って呼ばれてるのよ。

くす
だってあなた
有名だわ。



え!?
どうして…

モデル…
誰か…

それに…
ずっと前から
友達になりた
かったの。

あなたと…

そうして—
二人の出会いが多分
必然的な運命だった。

「だけど、さがしてるものは、たった一つのバラの花のなかにだって、すこしの水にだって、あるんだがなあ……」
（中略）
「だけど、目では、なにも見えないよ。心でさがさないとね」

『星の王子さま』
サン・テグジュペリ
内藤 濯 訳

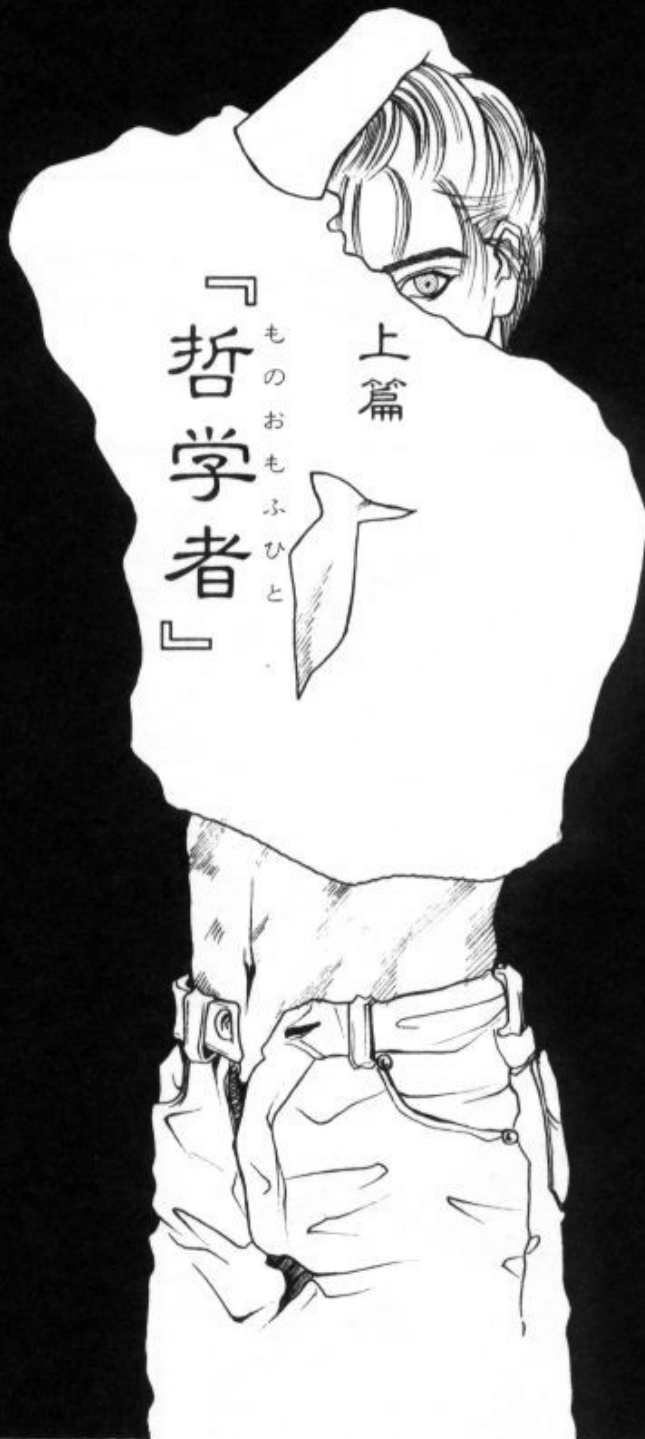
息さへも絶えだえに死の岸邊へとたどり行く！

『毒』
ボードレール
堀口大樹 訳



sweet sinful sadistic sacrifice
—RAPE ME—

罪のない人間なんていない。
意味のある“生”なんてない。



上篇

ものおもふひと

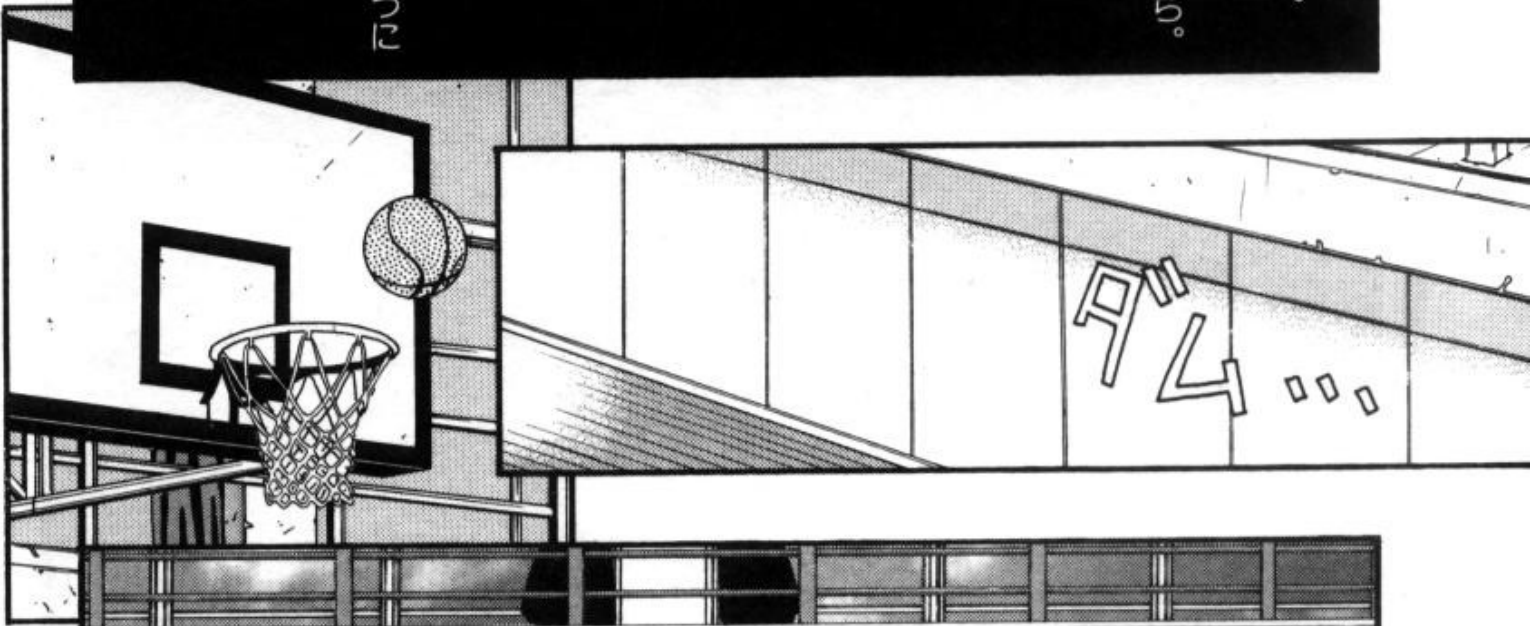
『哲学者』



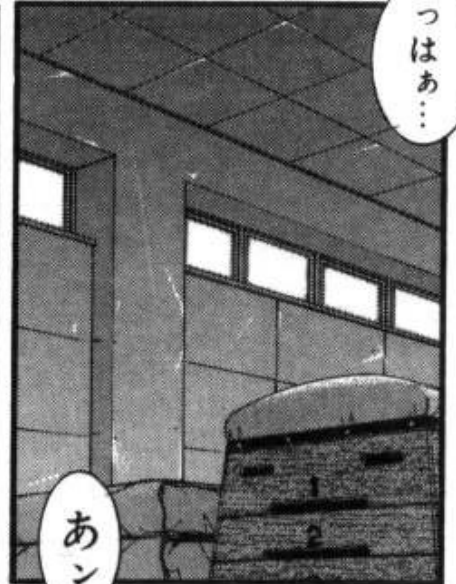
けれど唯一例外がある。
それを証明してあげるよ。

不安なのは
倅せすぎるから。
倅せすぎて不安
なのは、
うしろめたいから。

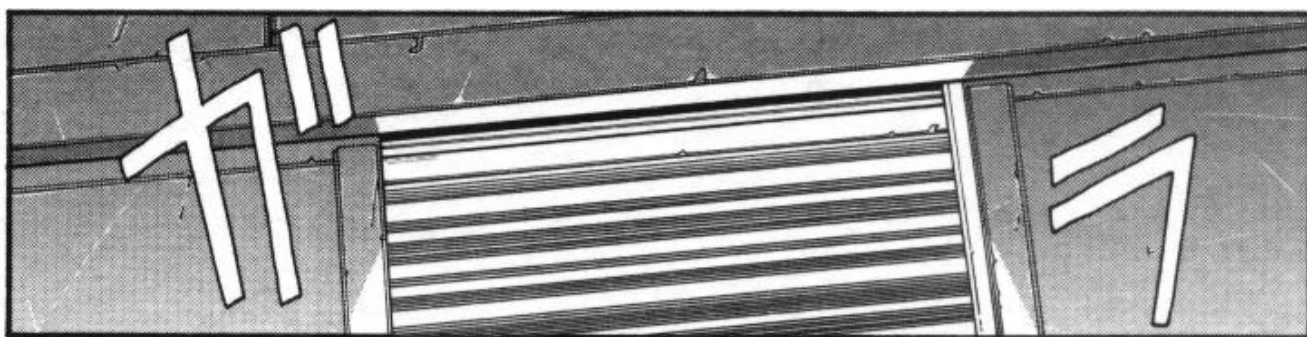
だから
隠ねていよう。
見つからないように
隠ねていよう。
じつとここに
隠ねていよう。

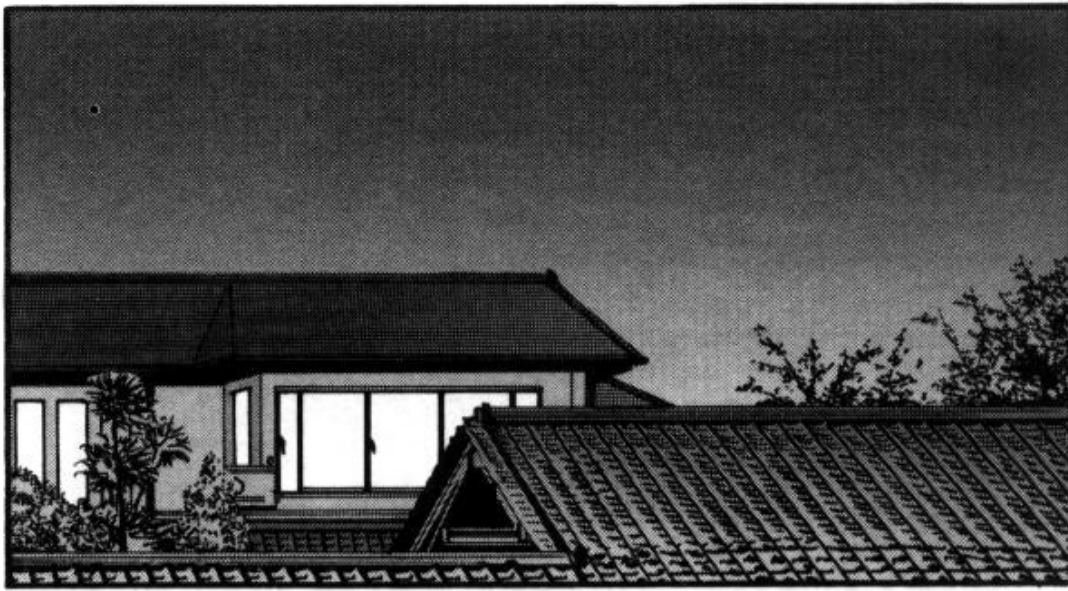


体育用具室・A











嬉しかったんだもの。

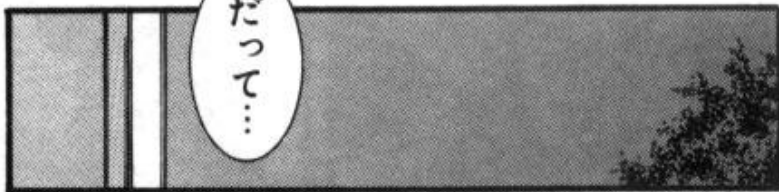


ピッ

いゝ

いゝ...

「でも」も何もハジメちゃんを女のコだと思ってるソレを、裏切っついていーの？



だって...



好きって言われたの初めてよ...相手が女のコでも嬉しかったの。



ゴシゴシ



はた

はた...



ふーん そうなの。

こんなあたしでも好きって言ってくれるヒトがいるなんて嬉しかったの...





でも言ってくれないじゃない…



そうだよ… マスミくんだけ。

あたしのコト知ってるのも女のコとして受け入れてくれるのもマスミくんだけだよ…でも…

あたしのコト好き…

あたしの望むコト一言だって言ってくれないじゃない!!



あッ

あたしがどんなにマスミくんのコトが好きで…



うん…

あッ

はッ

マスミくんをしたいコトなら何でもしてきたのに…!



あたし
やだよ...

はッ

マスキくんの
SEXの道具
なんて...
やだよお...

う...んんッ

はッ

こんなコト
ばっかりで...

あッ

ああッ



.....
そんなコト
一度だって
考えたコト
ないね。

処・理・用・の・女・な・ん・て
ク・サ・る・程・い・る・ん・だ。

はッ

SEXの道具？
SEXは方法だよ。

ハジメちゃんから「女」を
導き出す一番効果の
ある方法さ。

ゴ・ち・や・ッ

あッ

はッ

本当にイミのあるコトは
まだないんだよ。

あッん

んうッ

分かん
ないイ...

分かんないよ
マスミくんッ。

ハッ...

大丈夫 ハジメ
ちゃんならスグ
分かるコトさ。

あ...んう

そんなコト
あたし分か
らないッ。

分かんなく
たって
いいもん!

ひんッ

ふッん

だってあたし
マスミくんが
好きだから
なんだものッ。



好きっ。

好きなのッ。

こんなにこんなに
マスキくんが
好きなのに

マスキくんが
好きなのオッ。

それだけなのにッ

マスキくッ！ん…

ボクは違う。

そういうコト
じゃあないよ…





ハジメちゃんがボクに
求めているモノは全部
イミのないコト
なんだよ。



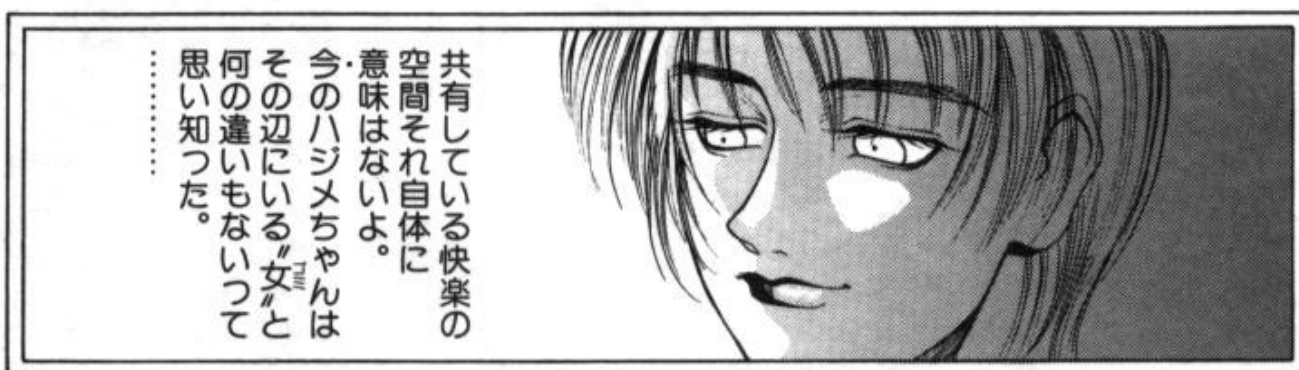
起きたの
ハジメ?

あー
おはよう



小さいトキから
ずっと……ずっと
好きだったヒト。

ずっと
ずっと……



共有している快樂の
空間それ自体に
意味はないよ。
今のハジメちゃんは
その辺にいる「女」と
何の違いもないって
思い知った。
……



そうだな
いつか……

いつかまたね。
答えを求めて。
ハジメちゃんの中にしか
ソレはないと思うから。
そのトキが来ればボクの方から
会いに行くよ。

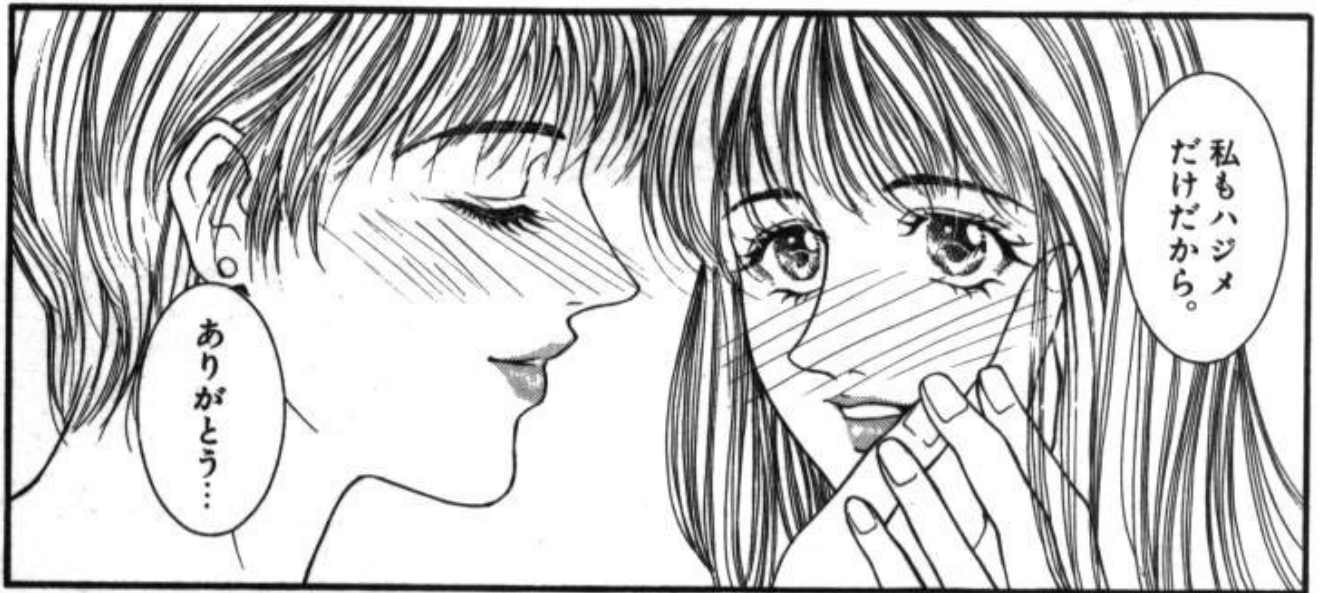


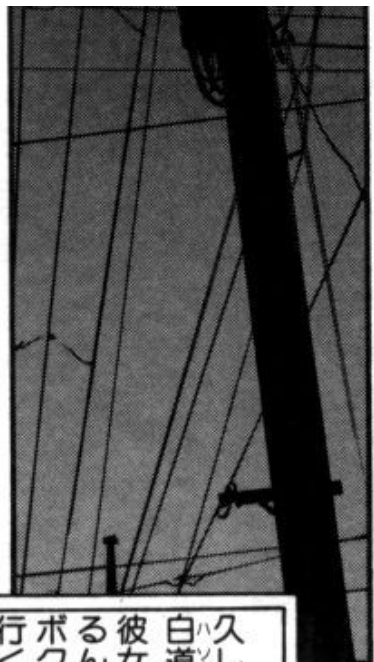
もうハジメちゃんとは
会わない……。――



ボクの方から

会いに行く……





あたしはメグムを裏切る訳じゃない…

そんなコトはない—。



久しぶりだね。白道路^{ハシロウヂ}恵…さんだっけ。彼女と付き合ってるんだ？ポクの方から会いに行くって言つたコト憶えてるよね？

じゃあ今夜。待ってるからね。ハジメちゃん。



今さらマスキくん^{マスキ}に用なんてあるハズない。ただ—

ただケリを付け
ときたいだけ…



あの時の想い^{キモチ}…

エピソード

E-1

くらがりのほさま

「闇間に。」

暗闇に抱きしめられる。

甘やかな

——かぐわしき甘やかなかおりに
包まれ、あたたかな温^{ぬく}もりに
満ちた至福の——
一瞬、

全てを超越する刹那の何という…



父親の再婚。
新しい母？(彼の妻)
そんなツマらない日常に
興味はなく――



時々遊びに来るハジメちゃんのコト。
祖父の遺した膨大な量の^{テキスト}本を
読み解いていくコト。
ソレだけで充分で、
それが世界の全てだった。

世界の広さが
つまりは自己の認識力の
及ぶ^{はんちゆう}範疇でしかない以上、
ほとくのそれは決して広く
はなかったかもしれない。



ただ不確実性の
カタマリでしかないモノに
心惹かれるよりはマシ。

少なくとも世の中にうんざり
する程いるうすバカに
生まれつかなかったコトは
ありがたい――
そう思っていた。



あの日その女を
知るまでは……

ん!?

ゴッ……

カギ?
地下の書庫……?

開かずの間……か。

本の中身なんか
くり抜いてまで
こんな……

全く……
コトをする……

親父か……

低脳。

学校が終わるまでまだ
間がある
となるとハジメちゃんが
来るまでは……

確か一度も見た
コトはないな。
ロクなモノがある
とは思えないが
一応見るか……

たまには時間を
ツブしてみるか

チーン!

カラ
カラ……



だあれ？





不思議な匂りが漂ってきた。その匂りの

アラ!

あなた…ズイブン大きくなっただわ



ほんを知っている!!

あんた誰だよ?

その匂いの



!

マリコ。

その匂りの何と甘くかくわしきあたたかな切なさ…

マスキくん…
この頃ハジメと
遊んでくれない。

さみしいよ。
アガム...

ごめんねハジメちゃん
また今度…

どうして
マスキくん…

ハジメのコト
嫌いになっちゃった
のお？

ねえマスキくん
どうして…

濡れてる訳じゃ
ない—
ハジメちゃん。
テクスト。
ほくの世界には
何の変化もない。
なのよ…

バタム

ごめんね。

ただあの匂りが
ほくを捕まえて放さない。
頭のオカシな女の肉体に
溺れきつてしまう程
ほくは低脳じゃない
のだから—。

ただマスキの
あの匂りが…





彼方なる場所へ。





真崇見イツ

「遥かなる高みへの」



何処の誰とも知れぬ
この不確実な存在の
たどるようもない



この感覚——。



いいな！
今後あの部屋に
二度と立ち入る
なっ！！

二度とだッ！！



親父ゴミ



ジロ...



わ...分かれば
いんだ。
用件はそれだけだ。

キヤ...

分かりましたよ
お父さん。



ハア...

ごく...

ハア...

ハア...



どうせ
大したイミは
ない...

いいさー
—
傾合だ。
あの女が何
モンだろーと
どーでもいい。

テキスト。
ハジメちゃん。

そんなモノに
関わってる程
ボクはヒマじゃ
ないんだから…

きゃッ

テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメ
ちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト
/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/
テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメ
ちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト
/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/テキスト/ハジメちゃん/

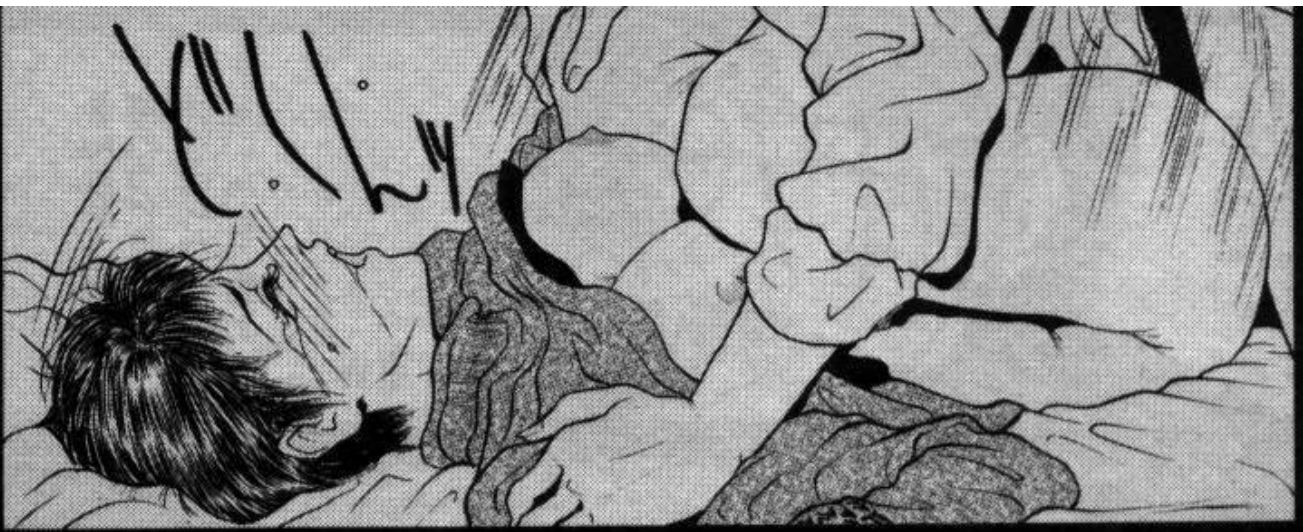


それから数カ月が経って——



何の前ブレもなく、突然に葬儀が営まれた。





卒塔婆に刻まれた戒名とその裏の小さな生前の名に、



初めて自分に母なる人がいたというコトを知った———真理子。



闇間に光の差すように。



それはかぐわしき
甘やかなあの匂りに
満ちて…

真理子

全てを超越する
刹那の幸福。

END

H-Kyoudai
scan



あたし…
何やってるんだろ？
何言ってるんだろ？

どうにかして
こんなバカなコト…



ホラ全部
脱いだよ
マスミくん

あたしあの時と
ちっとも変わって
なんかないよ。

でも…
でも…

ゴメンナサイ
女のコとしちや
ったの…

マスミくんが
いなくて淋し
かったから。



マスミくんは
見つめられてるだけ。
なのに…
どうして
こんなに
濡れちゃってるん
だろう……？

だから…
ハジメを叱って
下さい……



ヤケに素直
なんだね。

もっと怒ってる
んじゃないかと
思ってたけど。

あの時のハジメ
ちゃんの全てを
ぼくは否定した
んだからね。



ハジメちゃん。



実際今さら
ハジメちゃんが来て
くれるとは思って
なかったよ。



ひよっとして

固く心に誓ったハスの
コトがこのヒトの前は
いるだけで
粉々になってしまう...

懐かしいマスミくんの声。
あんなにも辛かった日々が
幻のように甦る...
あの日からのムネの痛みに
ケジメをつける——



彼女のコト
かな？

ビクン



恵さんにボクが何かすると思っだから

だから自分から勤んで「犠牲」になるってコト…

カンいいねさすがハジメちゃんだ。

ぼくをよく理解してる

でも無駄だよ。

今マスキくんを抱かれないと思うのはホントの気持ち

すぐ分かるさ

でも今マスキくんに言われてるコトもウソなんかじゃない



あたしはただ淋しいのがイヤだった…

マスキくんを好きになればメグムを好きになれば

お願い恵には何もしないで…

そうすればきつと幸せになれると思ってた…

お願いだからマスキくん。



フライドなんてない…どんなちつほけな想いでも曝われたってかまやしない



きつと二度と元に戻らなくなる

でも壊されたいはない

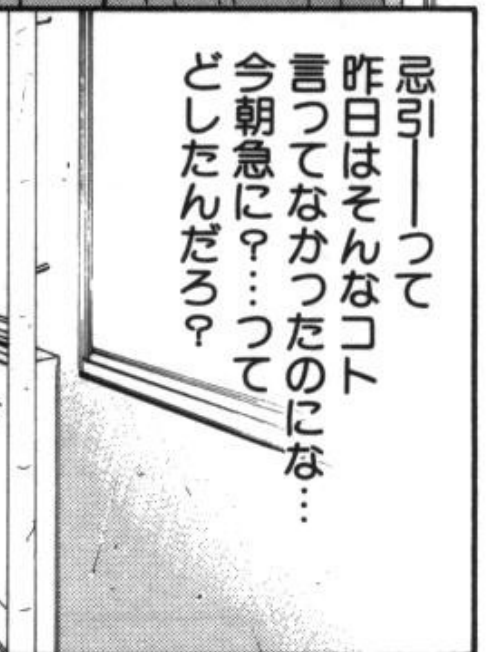
もうあのトキから
独りぼうちでは
いられなかつたから…

中篇

くだ

みづ

『砕けた水』





その日から一週間
ハジメは
学校に来なかつた…



こんなに
こんなにも独りであるコトが
辛いコトだつたなんて
思いもしなかつた。



こんなカラダで
誰にも想いを向けられなかつた。
きつとこんなにも醜いカラダの私を
愛してくれる人なんていない
と思つてたから
ずつと独りぼつちだつた。

さみしいだなんてちつとも
思わなかつた。
ずつとそうだつたなら
きつと今でも平気だつたハズ。



自分でも安つぽい
感情に囚われて
るんだつて気がする。

それだけど…
もう私は知つて
しまつたから

独りで
LIFEの



さみしさを

二人で
LIFEの



あたたかさを

ハジメがいてくれる
LIFEの



大切さを...

真実の名は孤独

愛は無力であると
教えてくれた

それは孤独



刹那のキラメキが
私を幸福にしてくれる



ただあなたが
いてくれるコトだけが



キラメキの中のあなたへの
トキメキがほんの一瞬
不確かな私を忘れさせて
くれる
ただあなただけが私を



胸焦がす
この想いだけが

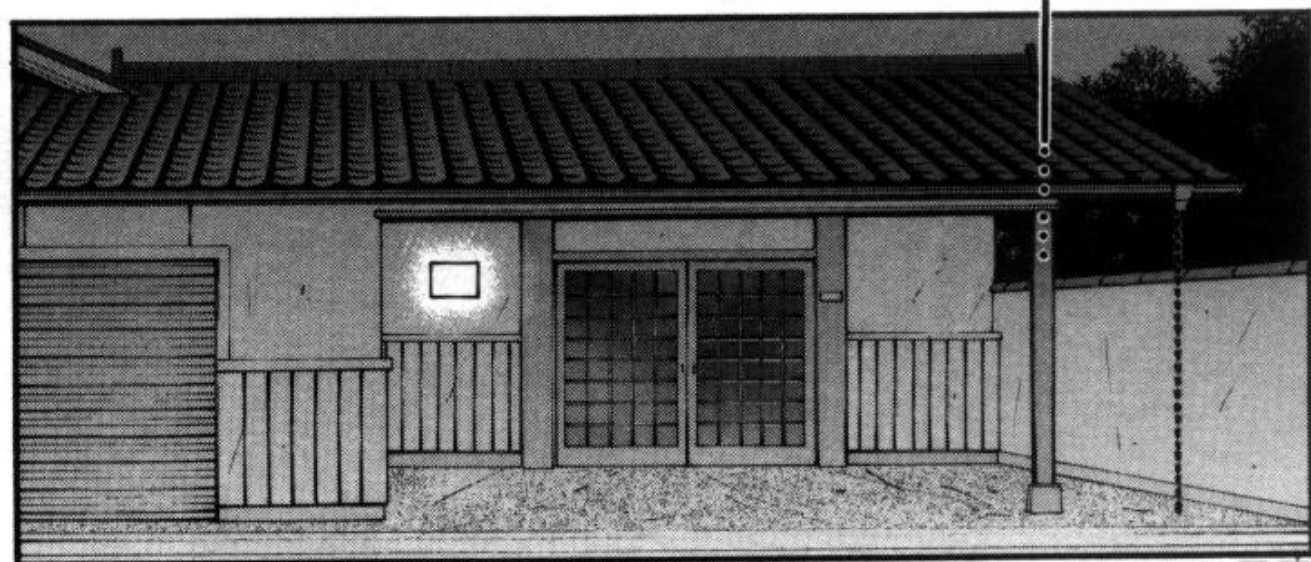
キラメキ...
胸焦がす...
この想い...



こんなの
あたし
初めて

ただあなただけが私を――

なんかね
すつごく
よかった…



ひどいよマスキくん
お願いもう
コレ外してえ…

そんなに
イジメない
で……

すごく
痛いのに…

郁 扇

この世の中に
関係のない
弱者なんて
存在しないよ。

ヒトは生まれ堕ちた
その瞬間に全世界
全てと関わりを
持つんだ。

そしてそれがどういう
意味で使われようとも
弱者とは存在資格を
持たないモノでしかない。

やだ…
入らないよオ

そんなに
入らないって
ばあッ

無理よオ

無理よオ
無理よオ

そんな…っ





だからどんな場合でも
「関係のない弱者」なんて
存在しないんだ。

やあッ

あッ

お尻があッ

お尻があッ
あたしの
お尻があッ...

こわれ
ちゃ...



革命が真理の
高みに人間を導く
唯一の道ならね

ダメッ

やあッ

あッ

ハハッ
ハヒイッ

そこで使われる武器
ってのは自ずと決まっ
てくるモノだろ？

ハッ

ハアッ

耳元で鉦や太鼓
なんか鳴らしたって
目なんか覚めないさ。

あーッ

こんなの
だめッ

あ~~~~ッ

こんなの
だめよおッ!

お尻がダメん
なっちゃうよ!

ハジメのお尻
壊れちゃうッ

マスキくん
許してえッ

っあ!

凍えるような水
ヤケドする程の熱湯

頭がどーにか
なっちゃうよお!

はヒッ...

はヒッ

はヒッ



これがヒトを
悟らせるんだ。

苦しいの…

痛いよ
ちぎれちや
うよお!



ハンマーで
殴りつけるような
強烈で致命的な
一撃

許して
マスミくん

んツ

ハジメだめに
なっちやうよツ



はひツ
がひイ

んはあツ

ハジメだめに
なっちやうよおツ

マスミくん!!

あひツ
ヒイツ

ひはツ

道を辿るものに
許された時間は
僅かしかない。

あーっ

なら最も早く
効果的に理想に
近付かなくちゃね。

そういう武器っ
てのがね
テロルなんだ。

出させてッ

出させてえッ

うーッ
うーッ
うーッ

SHINJI

お前一個の
お前一個の

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ

あーっ

恐怖と暴力の名を持つ神聖な儀式だよ。

さっ外してあげる。

誰かを殺したいと思つたコトなんかない...

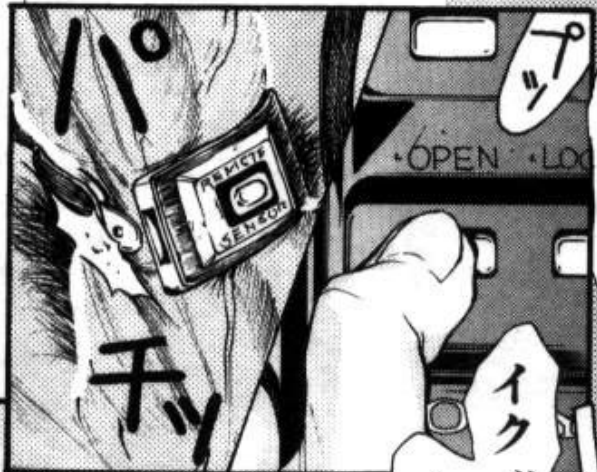
もう一週間だもの自分のしなくちやいけないコトも分かつたろうし



さすがにカワイソウになつてきたトコロだから。

ホラ、ペニスこっち向けて脚開いて。

ハイ... マスミくん うれしい... よ ありがとう



そんな憎しみを持つたコトもないしそんな必要にさし迫られたコトもない

イクッ
イクッ!!
イクッ

ズンガ
ズンガ
ズンガ

ズンガ
ズンガ



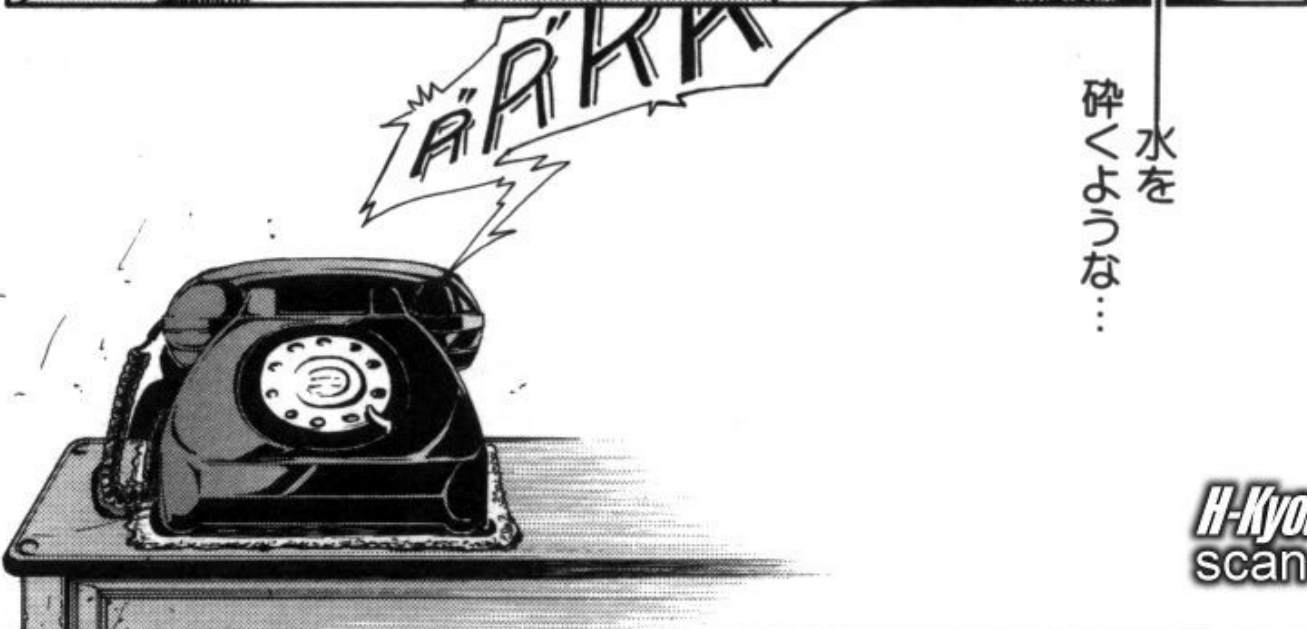
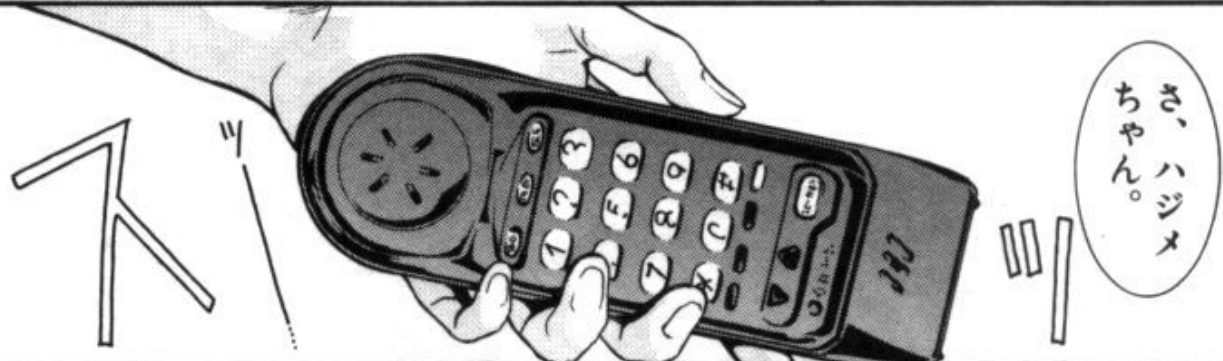
物理法則を超える
儚かない奇蹟のような



ああ

あ……

あ





どうしたの？
こんな時間に。

一週間も学校
休んだりして
……

どーしたって
ゆーのよっ。

黙ってないで
ちゃんと話
して。



え!?



ごめんね
メグム……

あたしもう
だめだよ……

ただちよつと恐かっただけ。
お腹の中にマスキくんがいるってコトは
ホントにちつともイヤなコトなんか
じゃなかったもの。

E-2

『PLACE』



だつてうれしかったから。
あたしもいていんだなって
思えたから……
「いらないヨ」なんかじゃないって
そう思えたから——

あれから10年が経った。

今までもその
だったけど...

あの日初めて
抱かれてからは
マスキくんはあ
遊びに行くの
楽しくて住方
なかつた。

その日が
来るまでは...

あ...

あん...

マスキくんはあ
色んなコトをする。

はッ...

んうん...

スゴク
来るよオ

はうん...

思い出すだけで
ドキドキするよう
スゴクエッチなコト

そんな奥まで

深すぎるよお...

あ...

もつと深いトコまで
入れてあげるよ
ハジメちゃん

よく見て
るんだよ。

あッ

はあん…

は—っ

あ

ああ

あん

時にはひどく
意地悪もされたり
したけど

あはっ…ん

んう…

ねユビやなの

お尻のユビ
抜いて…

マスキくん
ユビやあの…

んやん

マスキくんに言われる
コトならどんなコトだって
出来たし。

抜いてん…

ちつとも辛くなんて
なかつた。

ハジメまだ
イキたくないの

まだマスキくん
にいて欲しいの

マスキくん

あッ

んう
んッ





ぎゃふん

パンツ

あたしの生きてるコトの全部がマスキくんのもうなんだなって思えるコトが嬉しかった。

マスキくんがいるよオ…

あん

ハジメの中にいるうツ…

うふん…



スゴイイ…

マスキくんがいてくれるコト—そこからあたしの全てが始まった。

ああ…ん

だめエツ

だめツ

だめツ!

へんになるツ

へんになるよオ

イツちやう…

イツちやううツ

マスキくうんツ



あん
はあッ

ううん、全て
なんかじゃない。

だめッ

だめだよお

ぬ

ちや

だってそこから
初めてあたしは
あたしでいられたん
だもの。

ズ
ツ

ズ
ツ

あん

へんになっ
ちやうのお...

いやん
はふ...

う...ん

ユ
ユ

ユ
ユ



ふうん
イツちやう
イツちやううッ

マス、に...んが
いてくれたから

あんう

ぬ

あたしは...
いられた。

マスマイクんッ

あ...る

ひん

ふあん

う

マスキくん…

“大好き”

マスキくん

ハジメ…
イツちやうよお



あッ

ん…

イクふ

イツちやうよツツ

空気の中の水分が
凝結して
平になる温度は

イ…

あーっツ

あたしの中の色んな想^{オト}
形^{カタ}になってこぼれてく^ク
境^{カイ}界^{カイ}が

あ…

はア…

あーっ

はッ

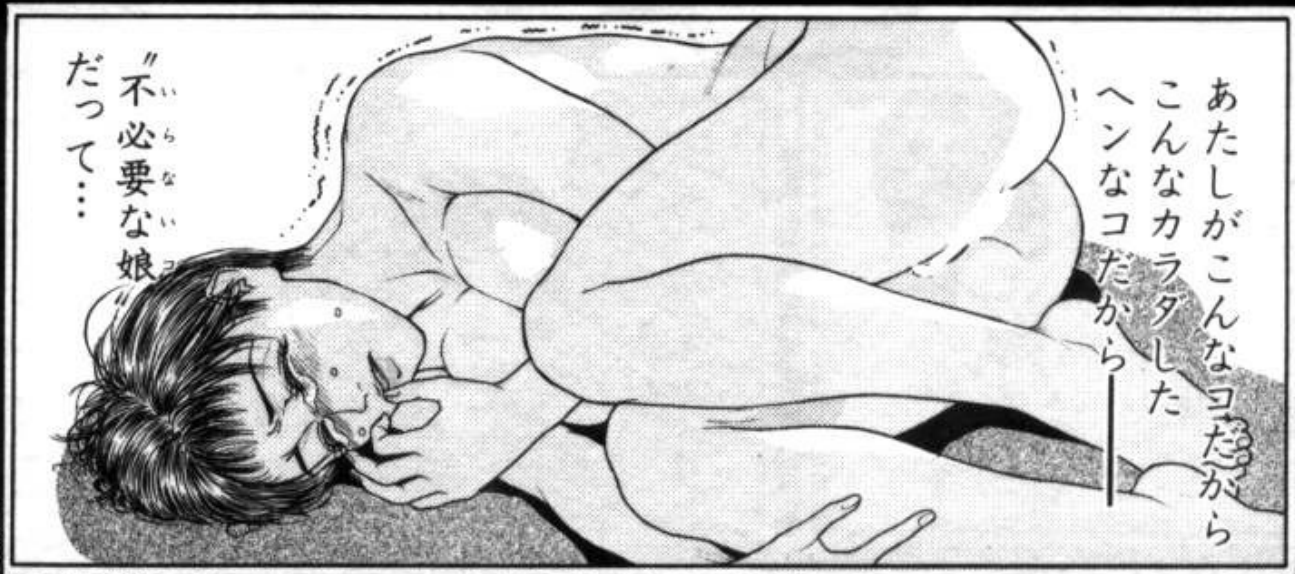
ふう…

は…



お父さんもお母さんも
優クンだっけ好きなのに

なのになににずっと
ずつと避けられ
続けてきたコトも



あたしがこんなコだから
こんなカラダした
ヘンなコだから

「不必要な娘
だっけ……」



あたしに触って
くれる人が欲し
かったコトも



誰かに言って
欲しくて

ハジメが一番
好きだよって

触ってもくれ
なかつたコトも



あたしには
マスキくんがいる。

あたしは「いらないコ」
なんかじゃない。
マスキくんがいる。
もう淋しくなんかない。



汚ない想いも
キレイな想いも

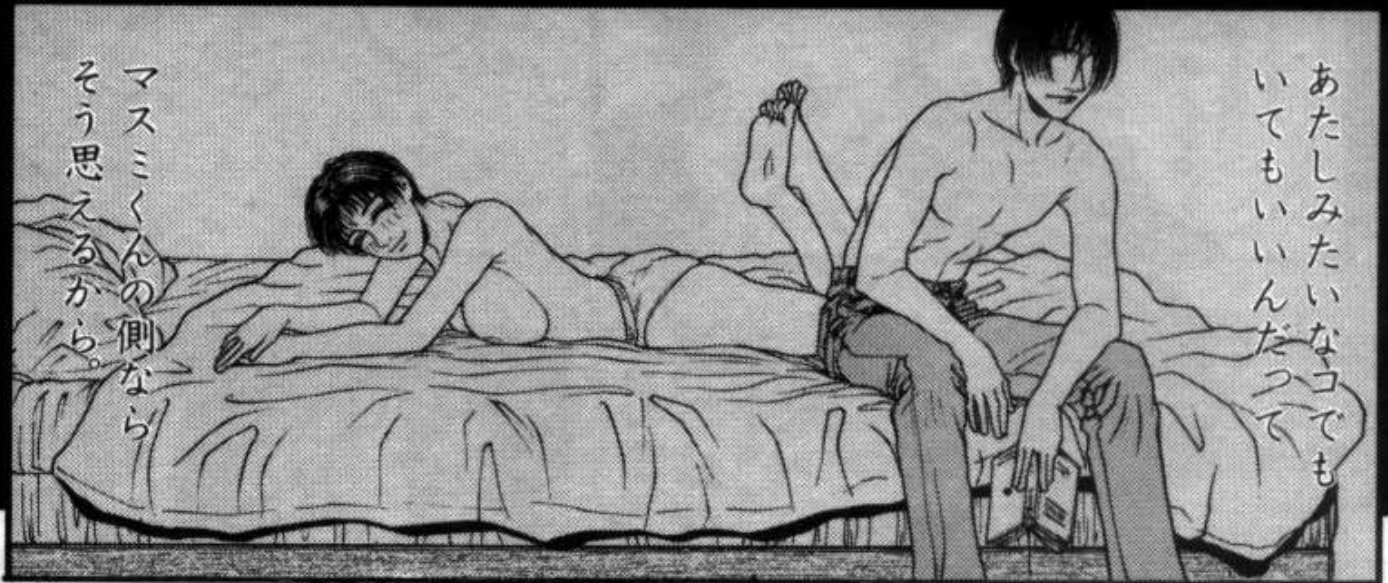
マスキくんの
前でなら

自然に平れて
いけるもの…



家にも
学校にも
いる場所なんて
なくてもいい。

だって
マスキくんが
いるから。



あたしみたいなコでも
いてもいいんだって

マスキくんの側なら
そう思えるから。



想いの全では
マスキくんから
始まって—

居場所も
与えられて
だもの…



大丈夫
ばあちゃんは
ハジメ
好きだよ



ひどいよ
マスキくん

こんなのないよ
マスキくんのコト
好きなのにイ...

どうして...

ハジメちゃんが
欲しかったんだ
それだけだよ

あたしが
欲しいって

マスキくんが
欲しいって...

だからもう
会ってもムダ
だよ。

やだよお
マスキくん

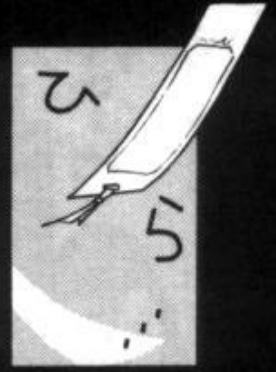
マスキくん

マスキくん...



いつの頃からか
近くの公園で独りで
過ごすようになった
「いい場所」の
あたし——。

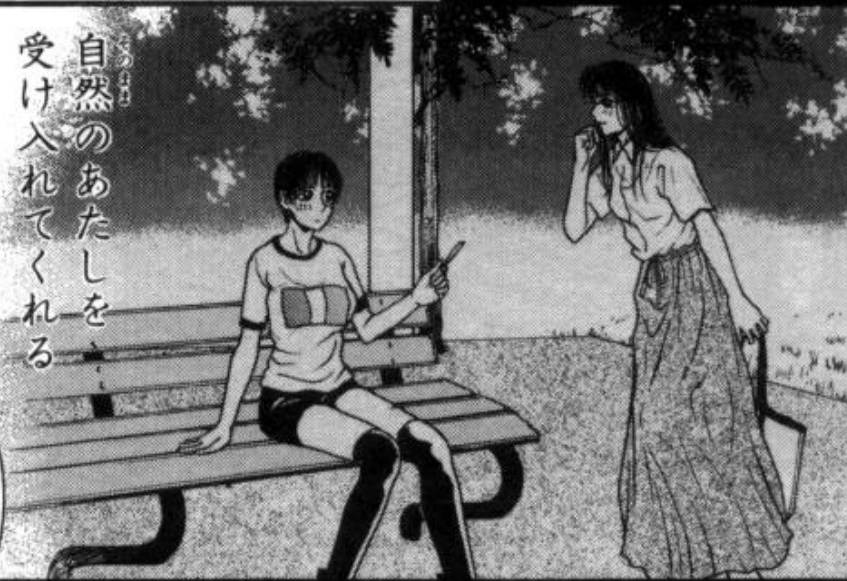
あたしが居ても
いい場所は
もう何処にも
なかったから…
けれど



ありがと…

けれど探してた…
あたしがいてもいい場所を

自然のあたしを
受け入れてくれる



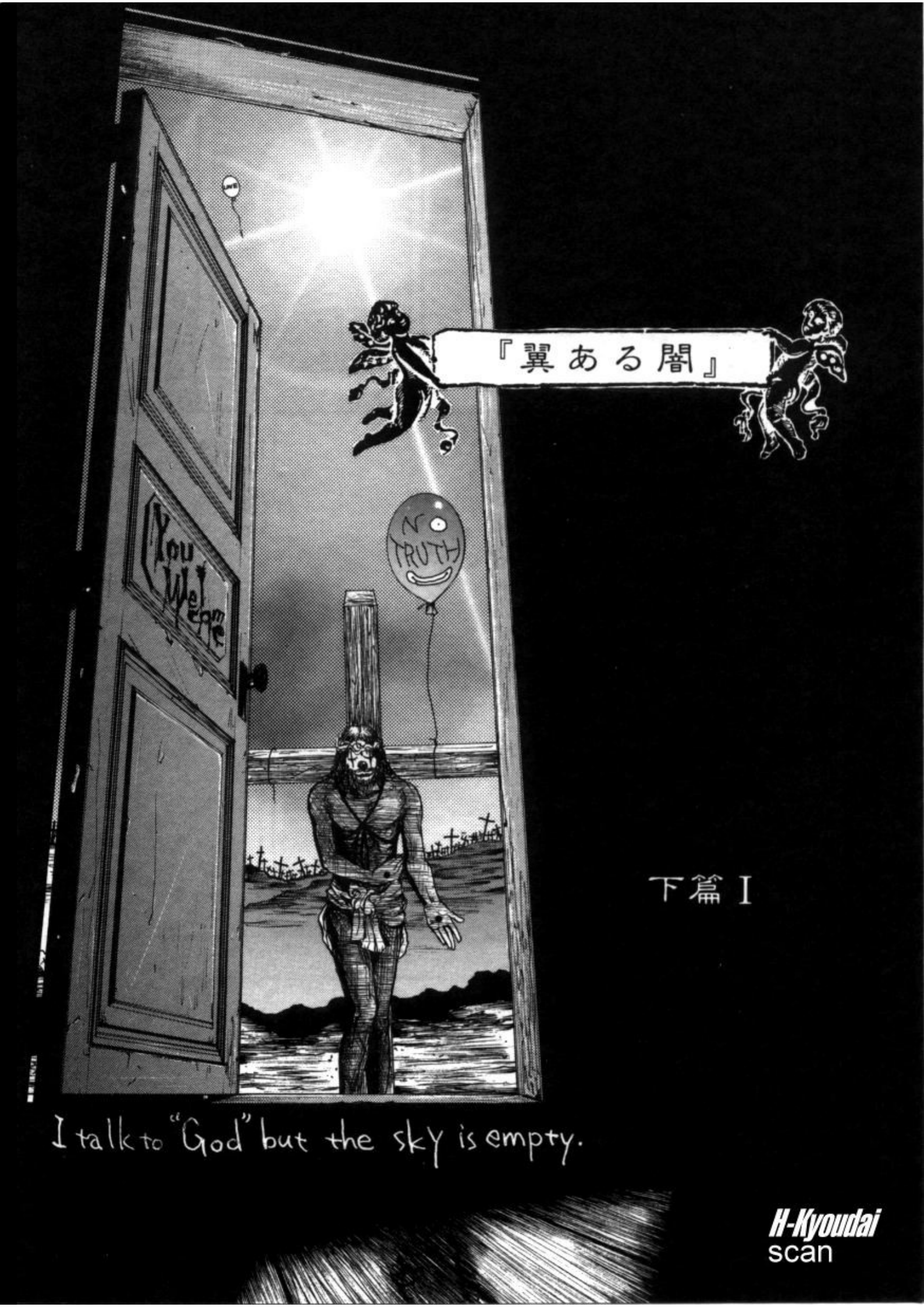
三組の元橋
さんでしょ？

私ねずっと前から
あなたと友達に
なりたかったの。

そんなやすらかな
揺籃にも似た…

END





『翼ある闇』

下篇 I

I talk to "God" but the sky is empty.

誰にも言わせない。
爛れた関係だなんて。

だつて
世間の恋人や夫婦の方が
絶対に汚ないモノなんだ
から



ずっと切実だし
ずっとずつと
純粹だつた。

そんな惨めな行為かも
しれないけれど

あつてはいけない隙間を
なくてはならないモノで
埋めていくような

(4.8秒)



大きなお世
話です



ホント大き
い愛だね
ハハハハハ
巨乳でハハハハハ



初めて私を好きになつてくれた人が私と同じにフツージャなかつた。だから余計に夢中になつた。醜い鱗の小さな一枚ですらハジメになら平気だつたし許せる気になつた。



きつとハジメもそうだつた。男の子と女の子の両方であるつていうそんなコトなんか私にとつては自然なコトでしかなかつたから。





どうしてなんだろう
 このうしろめたさは…
 まるで胸に何かがつかえてる
 みたいなこのカンジ…





ハジメツ

気持ち
いいよう

ん
むっ...

あん
メグムッ
サイコー
イイよッ

ハあ...

だけどそれが無ければ
このうしろめたさは
きつとなくなる...

何かがもつと
ハッキリするんだ
と思う.....





簡単に壊れてしまうクセに
一度壊れたら二度と元
に戻らなくなるってコトを
分かってて——

ハジメツ…



だからこそ
壊してしまいたい
のかもしれない。

何かをハッキリさせるために
私もハジメも——…

メグムう…

……
!!



マスキムさんの言うコトならどんなコトだって喜んでしたよ。

えっくっ

なににどうしてこんなコトするのオツ。

メグムは関係ないよオ。

ギシ...

ファイ.....

ギシ...



ハジメのコトいらないうってゆつたのマスキムくんじゃないかアツ!

だから探しただよ。

あ~~~~ツ

あ~~~~ツ

ひん

あ~~~~ツ

あたしをいってゆつてくれるひと.....

あん

ハツ

ハジメツ
ハジメツ



せつかく見つけたのにツやつと手に入れたのにツ。

壊さないでツ。

ハジメえツ!!

触らないでえツ。

メグムにそんなコトしないですツ!!

ガクン

ガクン



お願いよオツ
マスミくんツ!!

やめないね
今やめたら
気の毒だよ。

やあッ

だめえ

ハジメ...

ハジメ...

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

はッ

はッ

見たコトなかったら
メグムさんがこんな
乱れた場面をさ。



あーっ

ズッ
ズッ

メグムう...

お願い
だからあッ

あたしの大切に
していたモノが
音を立てて崩れて
いく!

マスミくんツ

あーっ

ハハッ

はーッ

こんなに感じて
喜こんでもらってるのに
途中でなんかやめ
られないよ。



ハジメエツ

そんなには
ダメエツエツ



あーダメです
ダメですツ



は——っ

本当は今でもマスキくんを
好きだつてコト。
メグムのコトを真剣に
愛しているつてコト。

マスキくんが私を求めて
いてくれたコト。
メグムがあたし以外の
ひとに心惹かれないコト。

は——っ



ああツ

いやツ

いやああツあツ

イヤツ

イク……

そつ思つて思い続けたコトで
そつだと思つて信じて
疑わなかつたコトが

そつでな△なつてしまつたコト。

イツちやうツ

イツちやうよ

ひあん

あツ

だめツ

あツ

イクウツ!!...

大切に大切に
積み重ねてきたモノが
軋みながら崩れてく。

崩したのはあたし。

メグムウ...

そうして

崩れていくのは

全ての.....



エピソード

E-3

Self-Salvation

~真夏の夜の夢~

Sin Sex
Salvation
is
So Sweet
ok?

午前中のプールが終って家に戻る。

薬を飲んで
お午過ぎから夕方まで^{ひるね}午睡。
10才の夏生理が始まってから

お腹の辺りでカサカサしてたのが
小さな鱗みたいになった。

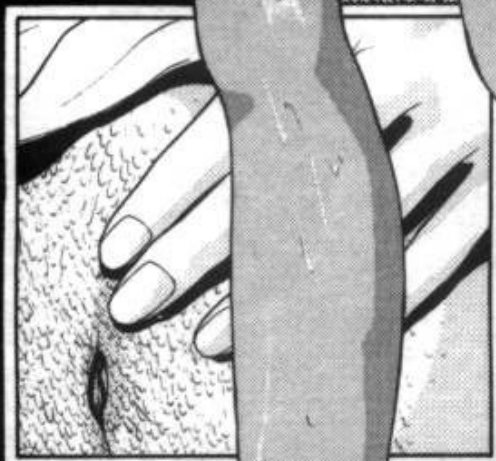
それはヘビみたいで
たまらなくイヤだったから

伯父さまの作った頭がぐるぐるなるヘンな味の薬も



ピョリ ピョリ...

ガマンして飲めた





いいかな

ケホ
ケホ
ケホ
ケホ
ケホ
ケホ



まいつか
あと半分は
作り直そう。





伯父さま…？



何…



どうして
パンツなんか
脱がすのオ!?

スル...



ヤダ!?

ヤダよ
伯父さまッ

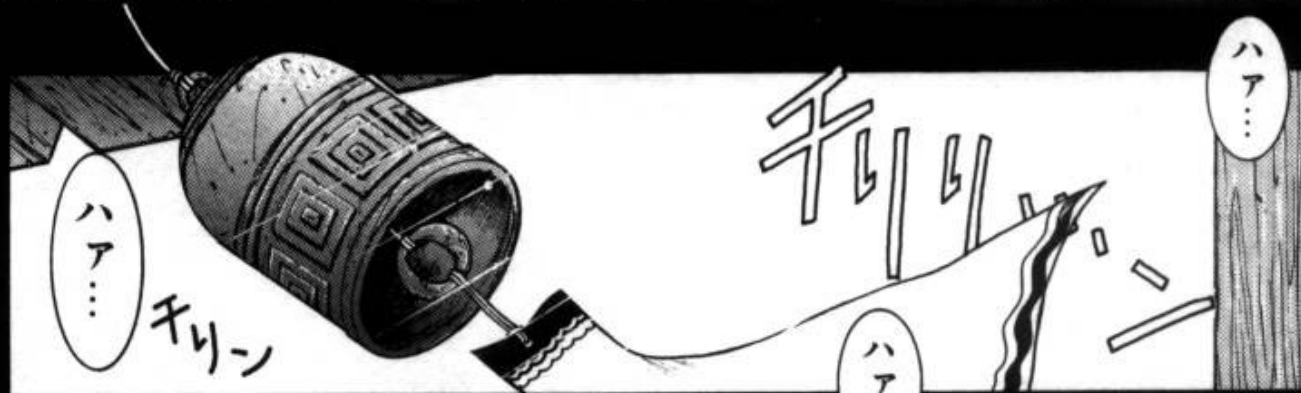
きゅッ



ゴッ

ハア...

ゴッ



ハア...

チリン

ハア...

ハア...



ぐすつ

くすん...

ひっく

！
恵お前、
気がついて...

えひ...



ハア

ハア

その時自分がされていたコト それ以前にもされていたろうコトも
それが

ど一ゆ一行為なのか知るにはさして日数もかからなかった。



それからはほとんど毎日がそうだったから——。





うん…

ん
ん
ん

は…ん

ぐっ

ふ
ク
ツ

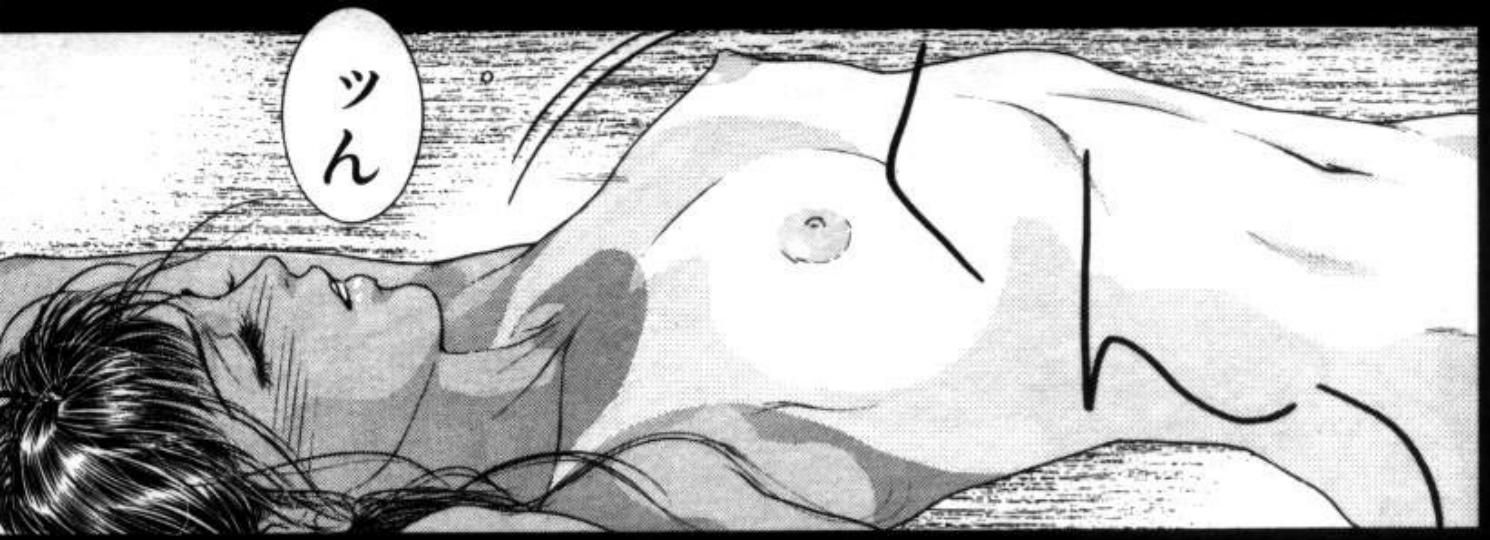


ひ
ん

あ
っ

ん
ツ
あ
ん

う
ツ
ん
う
ん
…



ツん



お……ごめん……

ンツ……ふ

あッ

はあん

はっ
ひん

ああッ



あっ!

あっ!

んふッ

あああッ



〜っん

あッ

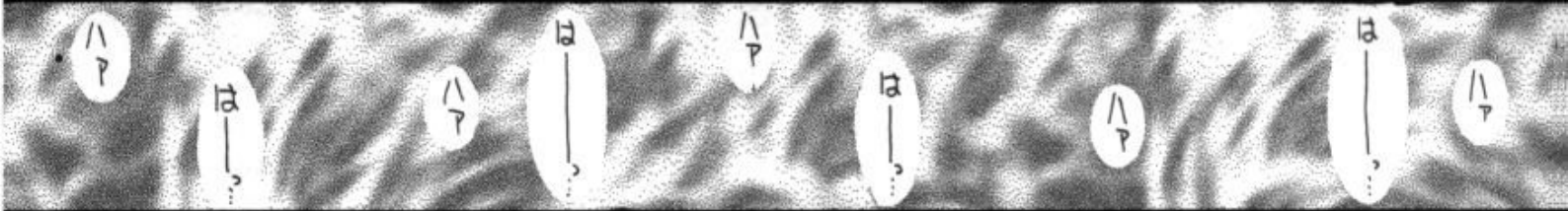
あッ

はん

あ

んんんっ...

ズッ



あれから2回目の そして最後の夏休み。

課目別の課題ノート。

学校のプール。

進学しない私には関係のない
受験用の特別課題。

中学卒業と同時に巫女になるのが
代々の慣習^{ならわし}だったし

ただ今
戻りました。

伯父さま…

お祖母様直系の
白道路^{ハクダウ}の女は
私しかいなかったから
それが当然だった。

こんなに
早くから
私の離れに。

夏休みは
毎年
こうなるのね…

伯父さま
来てらっ
しゃるの？

キリ
キリリン



あッ

ああッ

ハッッ

ハはッ!

グ

伯父さまッ

う…

は—っ

は—っ



大丈夫!?

その薬…

心臓の
お薬なの?

ああ
平気だ

そうだ



そんなモノ…

白道路の家に
富をもたらす
大事な蛇巫女
さまだ…



へび…ミユ—!?って

お前のその肌が
その証だよ。



だがお前が
巫女として立てば
私の立場も安泰だ。

心臓にかかる
負担も軽くなる

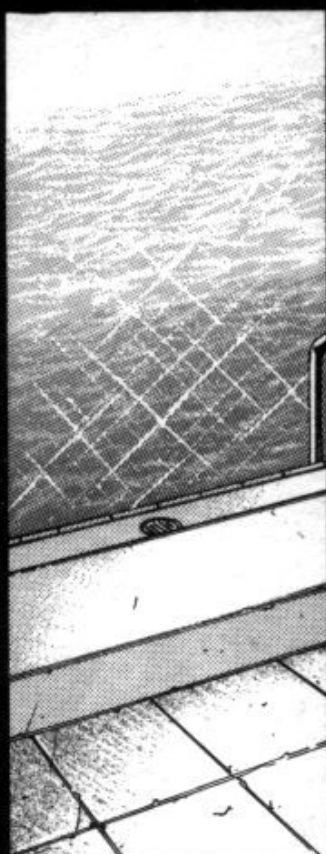
何せお前は先の
お祖母さまゆずりの
蛇巫女さま
だからな。



最後の夏休みが終わる。



あと一週間分残された数ページずつの課題ノート。



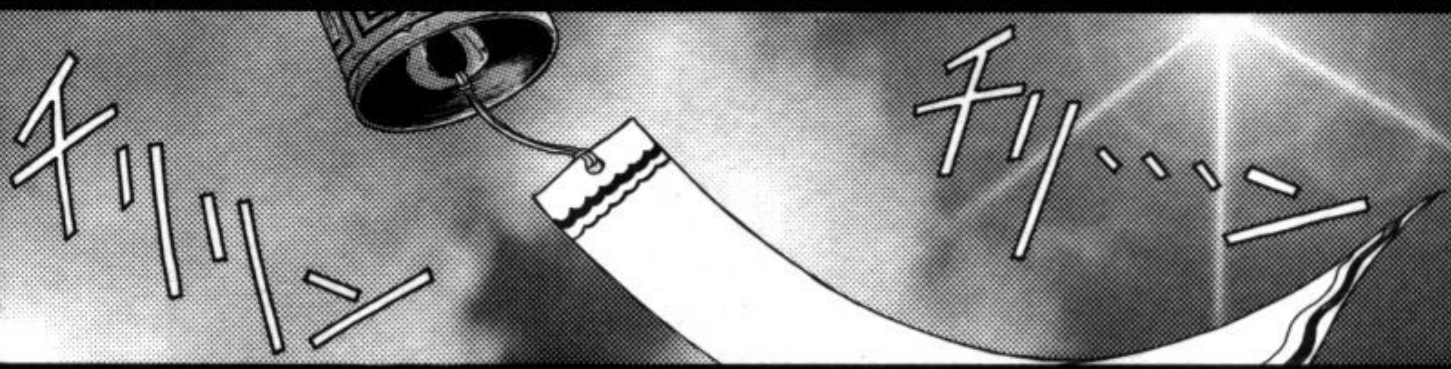
学校のプール。
お午過ぎに
学校から戻った時
伯父さまにされるコト。

H-Kyoudai
scan



知らないコトにしてしまいたかった…

たどえいつか知れるコトだとしても



無くなってしまえばいい

こんな鱗も 蛇みたいな肌も

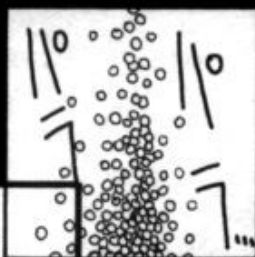
そんなモノに頼らなければならない白道路家も



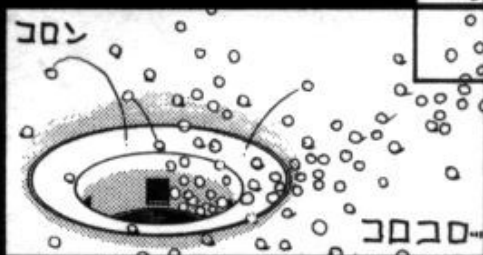
夏休みが終わるまでは一週間。

受験まではまだ半年

私は特別課題をやり始める。



代々の慣習も
蛇巫女も知らない。



あの日からずっと続いている
長い長い夏休みが

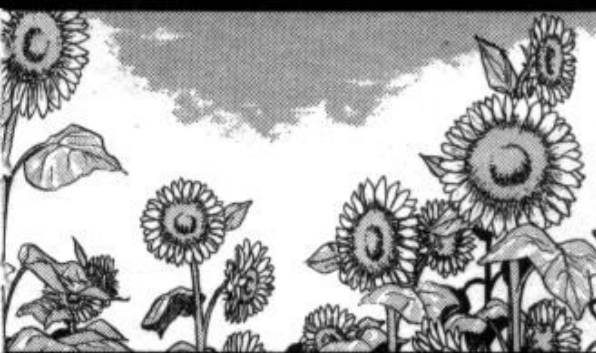
745日の長い夏休みが終る。



伯父さまと過ごした夏休みが...



伯父さまのいる最後の夏休みが。



けれど

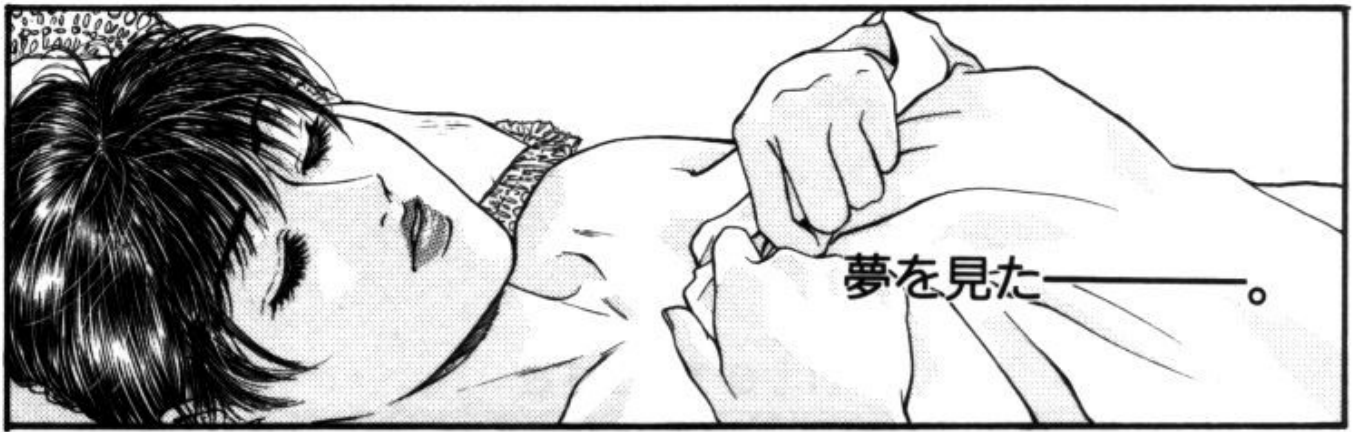


来年もさ来年も

きっと夏休みは来る。

END

H-Kyoudai
scan



夢を見た。



目を逸らせてはいけません。
基処に昏悶はない。
ただ比処にのみある。
比の奥の底に輝くそれを見つめる。

その向こうにそれはいる。
人の名に待つ眼がある。
目を離さずにそれを見つめ続けなくてははいけません。
常に飼われるコト
それだけをただただソレは熱望しているのだから。

それぞれ違うゴールを目標しながら
同じテープを切るその日まで

人がそれを飼う定めから逃れられないからには。

冷たい目。
まるで決められたセリブをなぞるような
澁みの全くない乾いた口調。

いつもと変わらないマスミくん。
それが兆しだった…………

Interlude



『Forbidden Fruit』



ヤバイよ。
メグムっ
よそうよ。

ねえってばあ
メグムう

ハキ
ハキ
ヘキ

カチカチ♡
カチカチ♡

学校じゃしない
って言ったの
メグムだよ!

それにイ

そんなのココ
こんなにしてる
コが言うセリフ
じゃないよ♡

そんな
だって…
あん

ひび

メグムがへん
なコトする
からでしょオ。

違うわよ。

んふ…

わひへわ…

どーせもう
みんな帰っ
ちやってるよ。





イクから...
イクからあつ

もうっもうお
しごかないでエ!

クス...
イツちや
えエ♡



うわッ
スゴイ量

ぐろごろ...

全然止ま
んないよ。



今度はメグムの
番なんだからね。

ビョウッ
セクンッ

あーッ
あーッ
あーッ



うんキタイ
してるう♡
ワスラス

でもその前に
別トコ行こ
立ったまますんの
ヤだもの。



早くうツ

もうガマン
出来ないイ

ハジメは一回イッた
からイイかもしれん
ないケド私まだ
なんだからねツ。



▲交互にわかく...



保健室の鍵って
チャンス全然なくて
ダメだったケド
ガチャ

ガチャ
ステンレスのベットって
のも冷っこくて気
持ちいんじゃない
かと思ってる。



メグム...
あま...









あ——っ

んッ

メグムウ

イクよ…
イクよッ

出して
私の内に

ハジメ…

あッ

んはっ

あ~~~~ッ

ハジメッ
ハジメエッ



っ

!!



ん……
なっちゃったねエ。



ふ……っ。
もう夜になっちゃったね……



そーだ
けどお……
あッ

ハジメだつて
その気だつた
じゃない。

メグムのせい
だからねえ。
こんなに遅く
なっちゃつて……

モ……

と程どもらいが



ひ
メグム!



校舎閉め
られちゃ……

もっかい
しよーよ。



うーい
モ……

バカ言つて
ないで帰ろ。



ウソウソ
イツツ
ジョークよ。



用意出来た？

うん…

じゃあ脱いで。



ん…

うん…

モジ

モジ



だって違うよお。

そりやメグムになら
いっくらだって見せ
たげるけどさッ。

どうして私の前で
恥ずかしがるのよお。



もう！
ハジメはあっ。
ワレワレ

全然ダメ
ちっとも馴れ
ないのね。



だから見え
ないポーズ
考えたんでしょ。



でも…

やっぱり
絵に描くの
なんて違うよ。

恥ずかしーよ。



ナ...
何!?

あ~~~~~

でもお...



違う~~~~ッ
そんなんじゃないよッ。

ちっ!

さては
見られると
感じるんだナ。



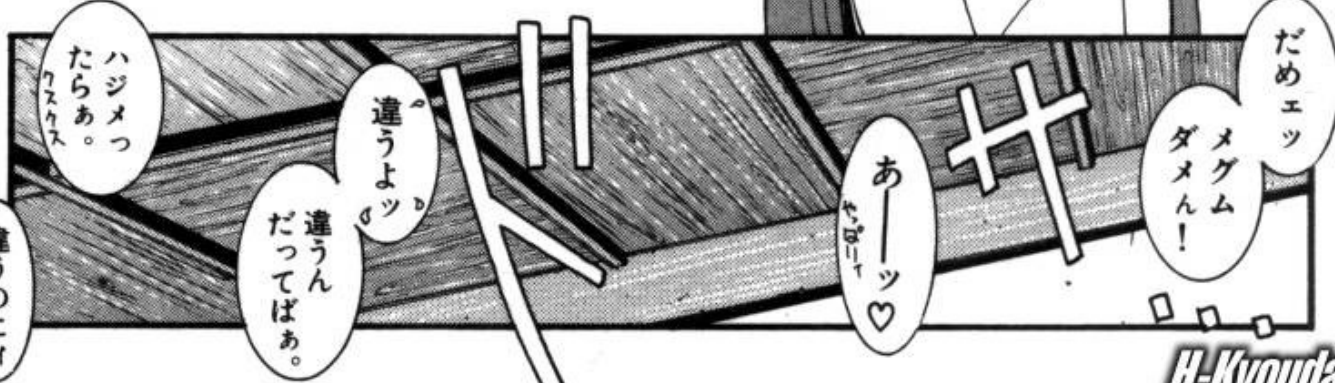
何言っ
んのッ。

やーよオ
もう!



ムキになるところを
見ると凶星だナ

どれオネーサマに
検査させて
みなサイ。



ハジメッ
たらあ。
ワスス

違うよッ

違うん
だっばあ。

違うのにい

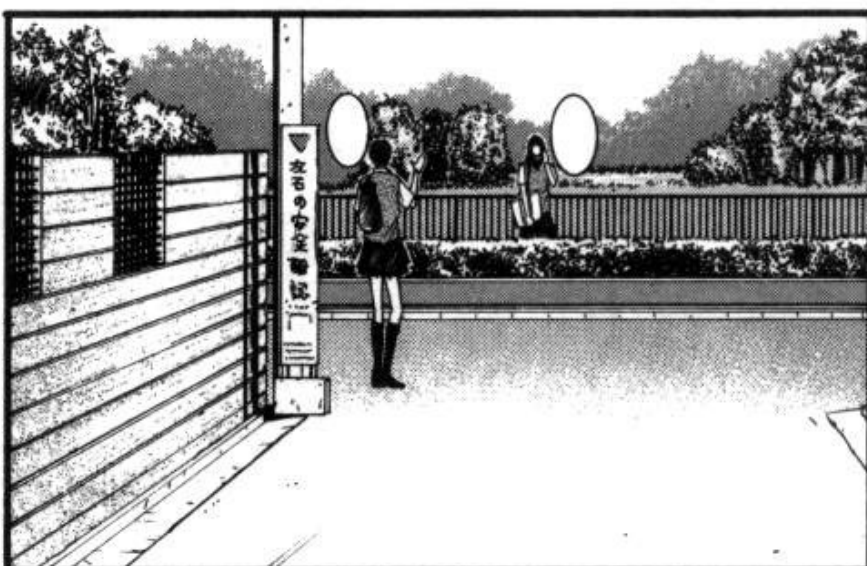
あーッ
ヤロー♡

だめエッ
メグム
ダメん!



好きよ…







朝帰りかい
ハジメちゃん。

!?

ビクッ



マスキくん…

お早よう。

久しぶり
だね。



かあ



彼女と付き
合ってるんだ？



白道路恵
さん…だっけ

同じ学校の
ヒトなんだってね。

……

どうして…?

あの時ボクが言った
コトはまだ無効
じゃないかな？



……



ボクの方から
会いに行くって
言ったコト覚えて
るよね。



もっとも
……

約束なんか
じゃなかった
んだらうけど。



ふじつて今頃になつて……!!

今更だオ
……



そのノキが来ても
何んの方なの
金も取らへよ。

だから今はもう……ね



約束破つたら
承知しむいん
だからね♡

じゃあ
今夜。

待ってるからね
ハジメちゃん。



あの夢だった。



.....——あれが兆しだったコトに気がついた。
そして

ずるいよ
マスキくん...



こんなっ...
今頃になって
なんかあ...

そして気が付いた時は
もう
手遅れなんだと

楽園を追われた
アダムとイブも
きっと
そう思ったんだろう
——と
その時ほんやりと
考えていた...

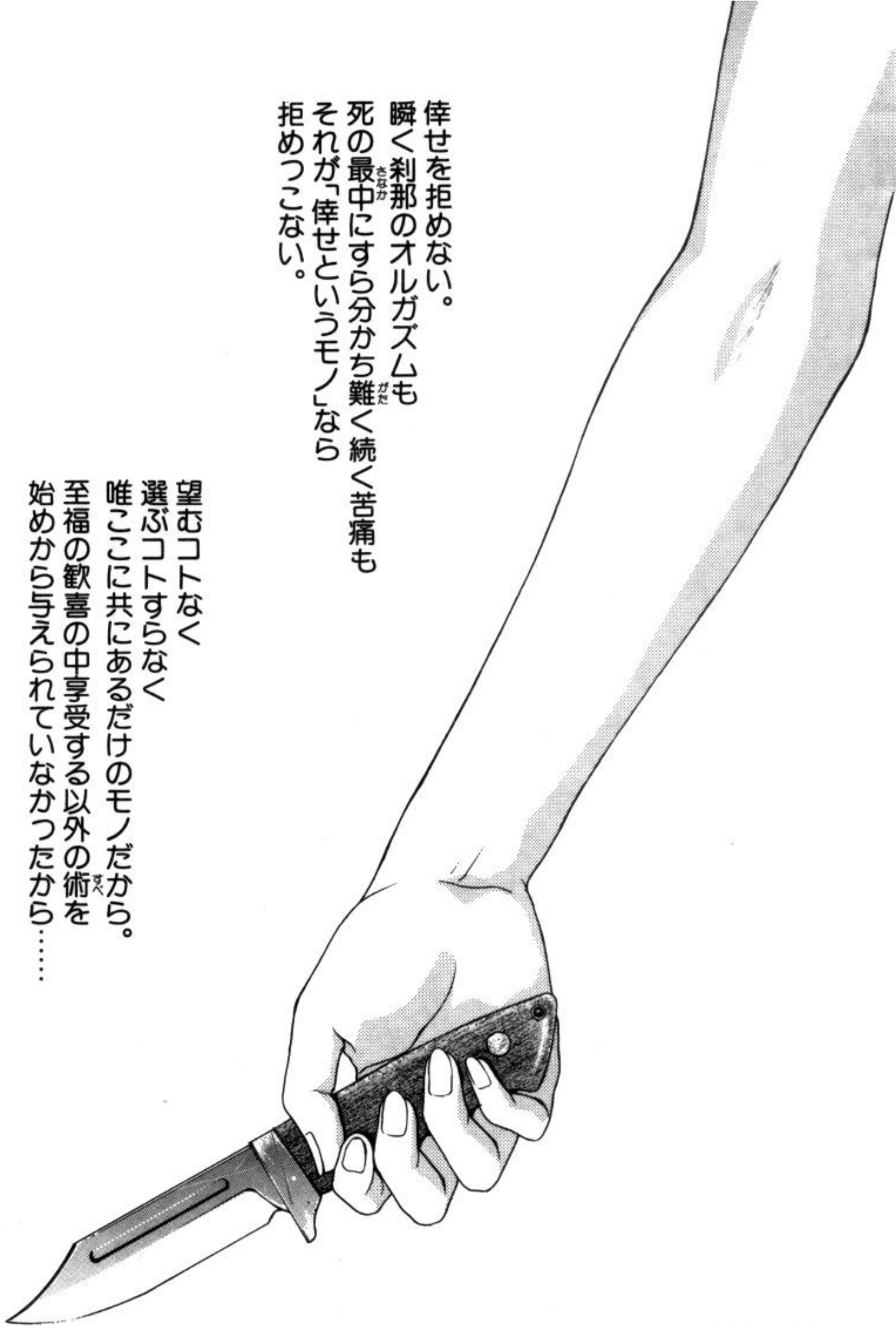
酷いよお...

こんなのって...
ないよ.....



倅せを拒めない。
瞬く刹那のオルガズムも
死の最中さいちゆうにすら分かち難がたく続く苦痛も
それが「倅せ」というモノモノなら
拒めつこない。

望むコトなく
選ぶコトすらなく
唯ここに共にあるだけのモノだから。
至福の歓喜の中享受する以外の術まへを
始めから与えられていなかっただから……





下篇II

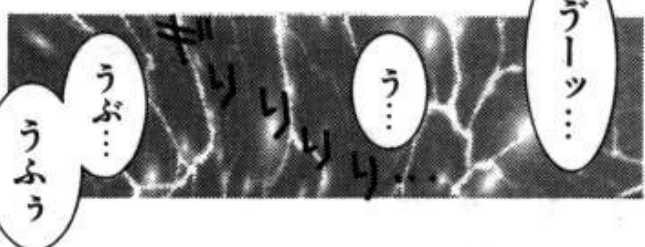
のトキメキとキラメキと
求められる全ての応えの中に



またイツちゃう...
アレから何回目
なんだろう.....



出させてもらえないように
イカせてもらえないまま。



メグムがココに来て
どれだけ経ったんだろ

ひッ



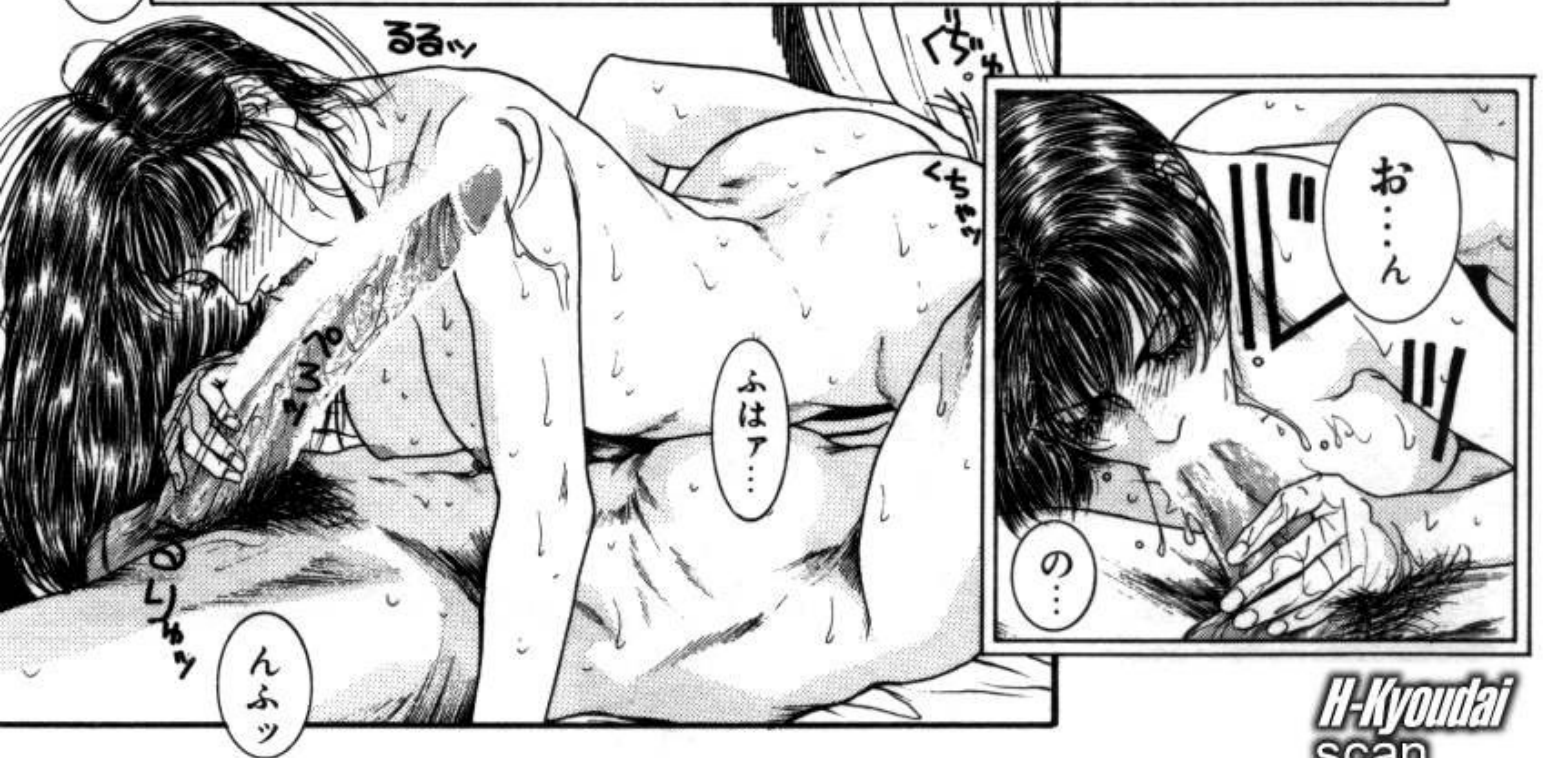
マスキさんと
一緒だった時間





かっつてのあたしと
みじめなくらい重なる...







ああッ

あッ

あッ

はっ…

はッ

ハッ

ハアッ



ハア…

マヌミン

ハア…

ハア…

メグムさんは約束
なんかもうどうでも
よくなっちゃってるよ。



!?

ハジメ
ちゃん

ハジメ
ちゃんッ



約…そ…く
—!…?



あ〜〜ッ

イヒン

あーッ

がッ

イイツ

それがどういう
コトか分かる?

あーッ

ハジメちゃんと
同じにね

10キ
ミユル...

カチヤ
カチヤ

チキ...
ミユル...

そんなこと
ない...

そんなコト
ないよお

そんなフリ
して...

とっくに分
かってるん
でしょ?

コレを望んだのが
メグムさんだって
コトも

こういうコトに
なるっていう
コトも

だってメグムさんを
一番良く分かって
るのはハジメちゃん
なんだし

ボクを一番に
知ってるのも
ハジメちゃん
なんだから

本当はぼくも
ハジメちゃんが
好きだから

ぼくは分か
ってた

メグムさんが
そんな様に

ハア...

そしてそういう
ハジメちゃんを
メグムさんは
知ってたろうし

マ・スミ...くん...

!!



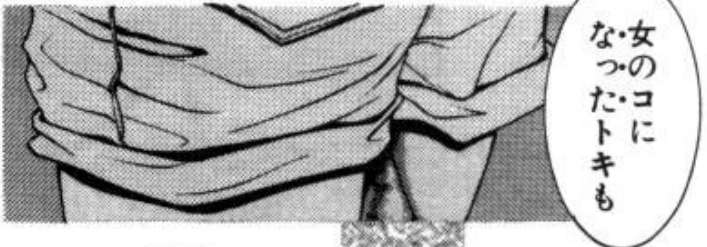
小さいトキから
そうだった…



今でも
これからも
ずっと…



ハジメちゃんが
男のコだと
思ってたトキから



女のコに
なつたトキも



そうぼくにとって
意味があるコトの
全て…

たったひとつの真実は
いつのまにかハジメ
ちゃんになってた。

死又ホド

好キタカラ

死ぬほど
ハジメちゃんが
好きだから。



絶対の真理から
目を背けようと
そんな刹那の夢
を見た。

ス...

あんッ

それに濡れながら
ハジメちゃんを見る
コトはいよいよ

んッ!

んむ

ぼく自身の輪郭を
際立たせ真理からは
誰も逃れ得ないコトを
思い知らされるだけ
だったケド

それでも



クッ

ぼくにはキミ
しかなかった。

ひあ

ヒトは何時如何
なる時も独り...

ハッ

ん...



応えを求めれば
求める程孤独を
知り

だからより一層
応えを求めた。

がる

がるるッ



答えは最初から
ハジメちゃんの
中にしかなかった。

会わない日々
でさえ想いは
キミにあった。

焦がれれば
焦がれる程
絶望を味わい
続ける



くっ…

もっ…
もっ…

もっ何も
言わないで
マスミンくん…!!



そんな地獄の
ような苦痛だけが
ぼくの唯一の糧だった。



んっ…

そうして
それが…

全てだった。



脆くても
儚くても

抱きしめた腕の中の
ハジメちゃんの温もりが
いつか消え去っても

肉体の交い合った
ひとときですら
夢でしかない...

幻でさえなければ
嘘でさえなければ

ハあ~~~~~

ふくッ

ハジメちゃんがボクに
求めたコトも

やあッ

あッ

メグムさんに
求めたコトも



ヒッ

まゆ

ん



永遠の孤独の中
刹那のキラメキを
夢みてただけ。

イふッ

うふう

ふう...

そんな倅せな
夢を見ていた
かったから

そうしてた
だけだった
んだ。

ああッ

ん...



ハア...

ハッ

ハア...

ハア...



そんなの
違うよ...

かく

かく



マスキくんと一緒に
いたかっただけ...
思い出せばいつも
苦しかったんだよ。



会いたいの...
メグムと会って
いたかったの。



一緒にいて
欲しいって...

あたしのコトを
必要に思っ
て欲しいって
それだけなのに

たったそれっぽっちの
コトがみんな夢
だっていうの?



ただあたしが
そう思ったがってた
だけだったなんて

そんなのって
ないよおッ

そんなコト
認めないよ!!

——そうして
何より認められないのは

他でもない

そんな真^{コト}理なんか
とつくに気付いてしまつてた
あたしの心……



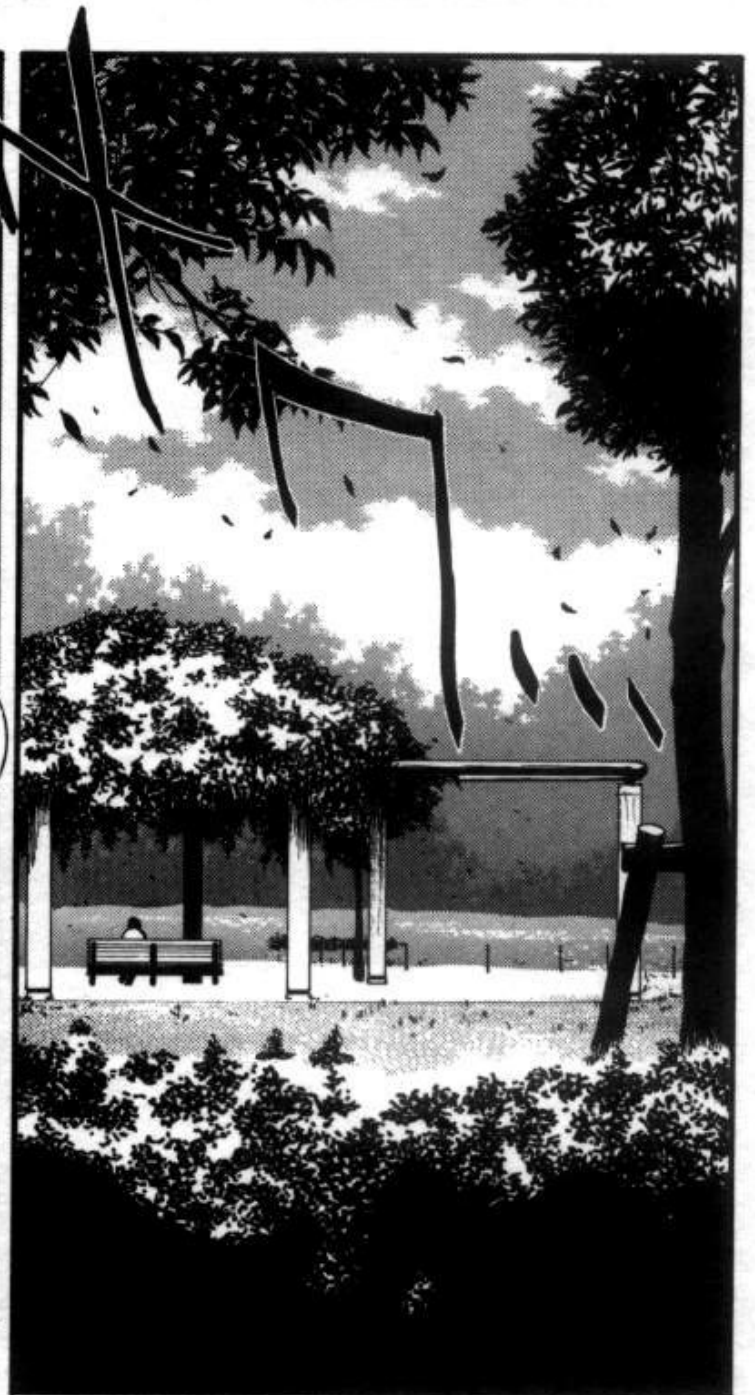
そ……んなの
……は……っ

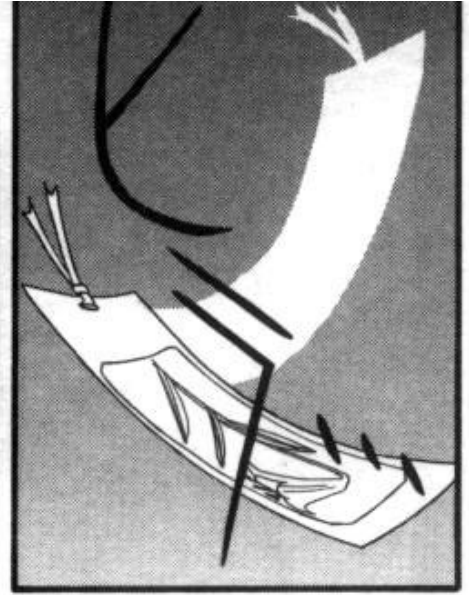
認めらん
ないよ……

これはいつまでも消えない傷
忘れるコトの出来ない辛い思い出
今持っている記憶の全てを失くしても
これだけは失ない得ない
終わるコトのない涙で綴られた
永遠の二重螺旋

そして今はもういない愛するあなたに捧げる昏い記憶を封じ込める前の最後の回想…







最後の回想



H-Kyoudai
scan



終篇
SERENADE





「認めたくないものを
認めてしまった」
というコトを
認めたくなかった。



気が付かないフリ
をして

目を背けて幸福
に浸ってた。



だから本当のコトから逃げた。

うしろめたかった…



そっとう自分が
すこやましい
コトしてるって
何となく思っ
てた。



なぜなら
なぜなら浸ってる幸福それ
自体ですら

本当はあり得ないコトだって
分かってたから…



だからいつか壊れるんじゃないかっていつも怯えてたし

壊したのかもしれないって思ったコトもあった。



マスミくんは正しい。それが正しいってコトもあたしは分かってた。

ただ認めたくなんかはなかった…



結局最初っからあたしにはあだし独りでしかないっていう

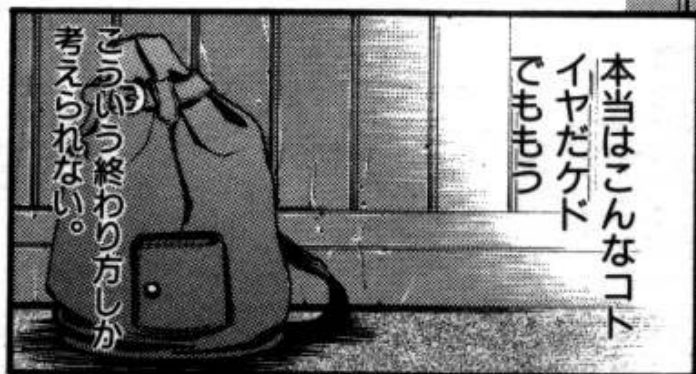
そんな淋しい事実だけだったっていうコトを認めたくなかっただけ



そのマスミくんですらあたしにとって本当はマホロシみたいなものでしかないってコト。



実はメグムがマスミくんの代わりでしかないってコト。

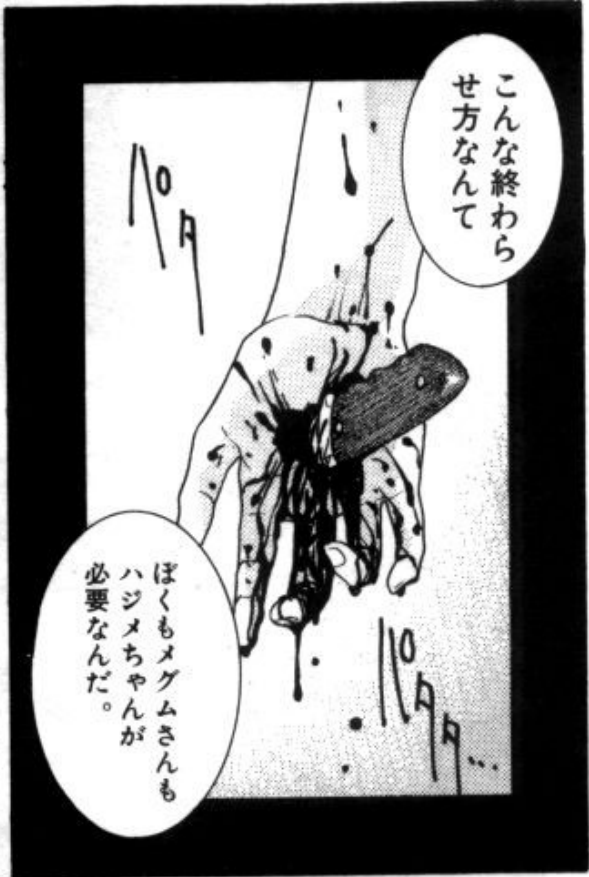








夢でも幻でも
嘘でもね
それでも

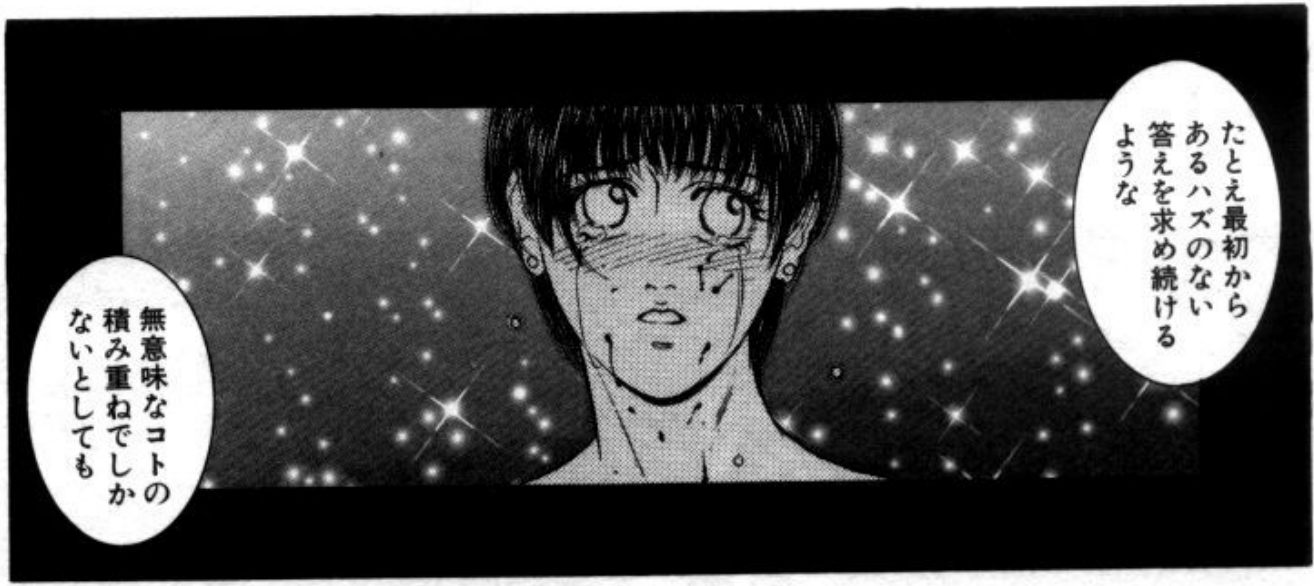


こんな終わら
せ方なんて

ほくもメグムさんも
ハジメちゃんが
必要なんだ。

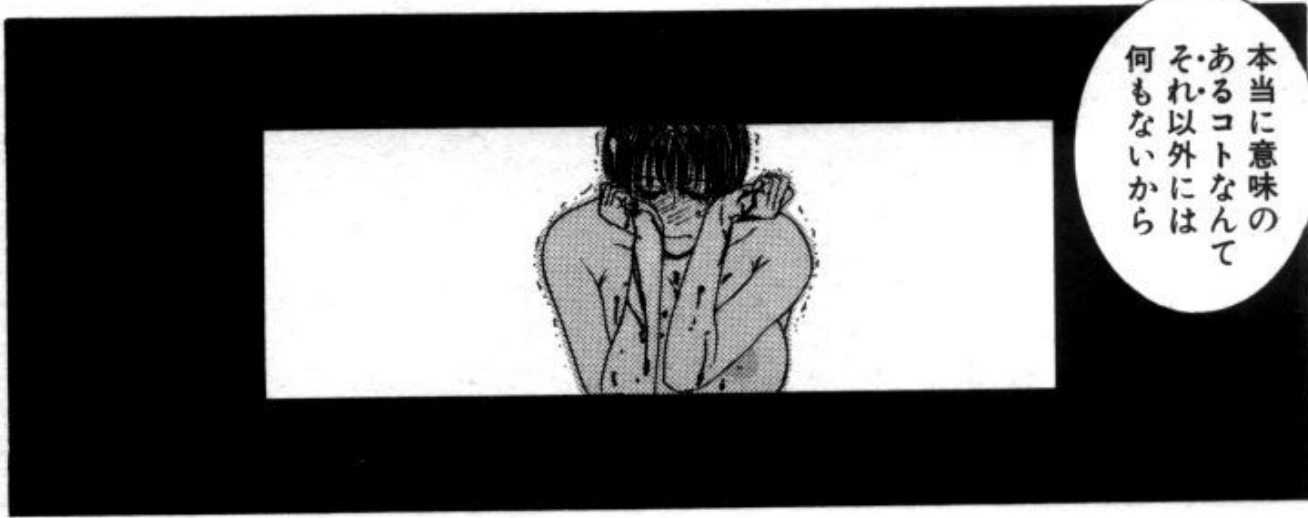


ハジメちゃんは
比処にいたくちや
いけない。



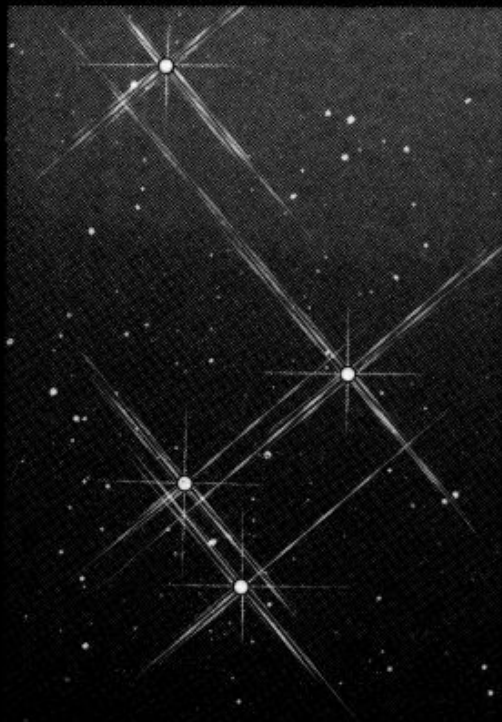
たとえ最初から
あるはずのない
答えを求め続ける
ような

無意味なコトの
積み重ねでしか
ないとしても



本当に意味の
あるコトなんて
それ以外には
何もないから

今比処に
ハジメちゃんが
いるってコト
以外には…



何も…ね



善悪を知る禁断の美を
狂った楽園の中でずっと
味わい続けるコトを願ってたから。

祈りにも似た神聖な想いを
いつまでもかみしめてたかったから。



痛みを覚悟で恋した訳じゃなかった。

与えられるモノと等価の何かを失っても
手に入れられるなら苦痛も快感になる…

だからあたしは誰かを必要としてた。



真崇見くんを。



恵を。

自分以外にも自分を
必要としてくれる



“他人”を求めてた。



二年が流れ
なのにメグムだけが
逝ってしまった……



愛でなく
恋でなく

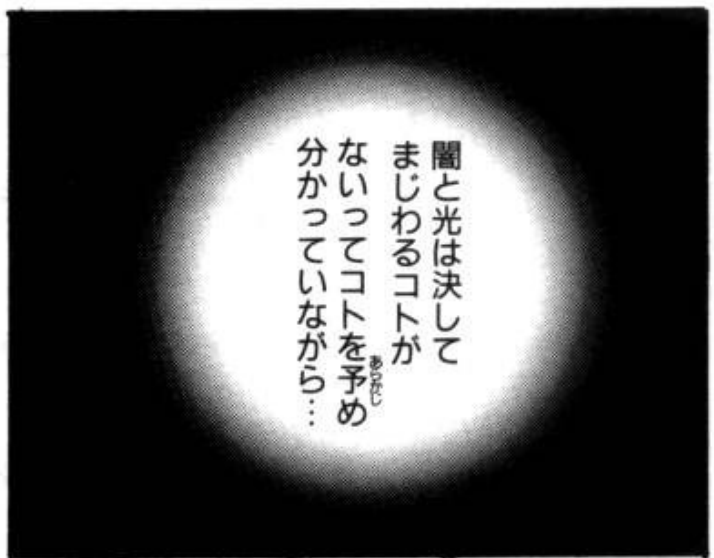
——けれどそれ以外の
何物でもない絆きずなに繋がつなれたまま



光が光だけで
存在しないように。



闇が闇だけでは
いられないように。



闇と光は決して
まじわるコトが
ないってコトを予め
分かっていながら……

まるで^{まどろみ}微睡に溶けるように…
やわらかな陽射しに包まれるように…



メグム…



罰が当たった
んじゃないかな

心臓悪く
するなんて



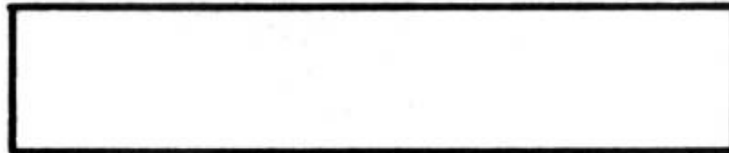
いいの私
併せよ



こんなに私のコト
想ってくれる人が
二人もいるんだもの

私マスミくん
好きよ

ハジメのコト
可愛がって
あげてね



—そうして あたしはマスミくんと生きるコトを選んだ……。



ハジメっ

大好きよっ



待った?

キ



きや...

メグム...



ううんそんなにはあたしが早く来すぎてたの。

ありがとうあなた。



じゃ行こっか

うん



甘く 罪深く 加虐的な 犠牲

R A P E M E

E · N · D

STAFF

里見 誠 宝蔵院 貴志

SPECIAL THANKS

うめつゆきのり

大石 守

服部 千尋

北條 仁

担当山田氏とドルフィン編集部の方々

a n d

全ての読者の方へ

少しばかりでなけなしの けれどありったけの愛と感謝を込めて



琴之がま

TSUKASA-COMICS

RAPE ME

1996年12月25日 初版発行
1997年2月5日 第3版発行

著者 琴吹 かづき
発行者 永野 邦裕
編集者 山田 俊

発行所 株式会社 司書房
東京都千代田区三崎町2-11-7 トーエンビル
郵便番号 (101)
電話 03(3263)6791
印刷・製本 ㈱技報堂
写植 公栄社

乱丁・落丁本はお取り替え致します

H-Kyoudai
scan

暗躍人・ラブ・エモーション
 IDEA・春夏秋冬
 伊武秀吉・Fu-Tai-Ten
 宇佐木恵・しあわせWith you
 絵本ありあ・ヒステリックピンク
 尾崎晶・NEO-ERO
 尾崎晶・D-SHOCK
 尾崎晶・DAY BY DAY
 があさん・愛の妙薬恋の化学
 回輪鬼畜・虹色少女学園
 かたせ湘・ドキドキりかこ先生
 かたせ湘・ドキドキりかこ先生 2
 蟹森ぐり・アルコール注意報
 KAME・YEAH!
 かるま龍狼・メイド・ウーマン
 かるま龍狼・メイド・ウーマン 2
 きねま天戈・白百合銃士隊
 きやらめる堂・タナトス・キス
 きやらめる堂・ママレード
 倶梨伽羅・How old are you?
 倶梨伽羅・ナイショ♥ないしょ
 琴吹かづき・ナイトビジター
 琴吹かづき・RAPE ME
 斉藤苑子&速水裕・
 魔法のエンジェルミルキーリップ
 櫻見弘樹・しっぽの仕組み
 さつき優・ベイビィフェイス
 篠原哲生・めがねっ娘純情
 じゃみんぐ・キャッチ・ザ・ハート
 鈴木がんま・プライベートレッスン
 高岡基文・特選!!グルメの店
 茶々木紀之・茶々木印Special blend
 ちたま(菓)・好きだけど好きだから
 東海道みっちい・ウォーターフルーツ
 豊島ゆーさく・BREEDER
 猫玄・図書館の妖精
 猫玄・好色少年
 華沢れな・闘魂!スポーツ少女
 花見沢Q太郎・月家の一族
 花見沢Q太郎・ひよこ
 花見沢Q太郎・スイカと海と太陽と
 光野大地・
 飛んではずんでポヨヨヨヨ〜ン!

ひぼぼたます・さいごんてい
 緋村えいじ・SADISTIC GAME
 緋村えいじ・ANDADURA
 氷室芹夏・
 魔法のセーラー服美少女イクコちゃん
 豹高之・バイトしちゃうぞ
 深田拓士・呪縛
 前田貴也・ME TOO!
 魔訶不思議・あくまくまじっく
 魔訶不思議・アンチテーゼ
 間垣亮太・RABBIT STATE
 M・Gジョー・マシンガンLADY
 まついもとき・高校教師物語
 まついもとき・高校教師物語 2
 MARO・シャレーダー
 Mitsuo・DECEIVE
 むつきつとむ・リングアドベンチャー
 むつきつとむ・
 I WANT...—わたしの欲しいもの—
 山田ひより・小春日和
 世棄犬・DOG MAN
 RaTe・Any Questions?
 RaTe・Best Relation
 LAZY CLUB・NAKED BLUES



深田拓士「呪縛」より

ひみつのあとがき

雑誌掲載時に編集長閣下から1Pふんだくって「あとがき」やったものの、実はこんなトコに1P見つけちゃったのでまたあとがき。

で、だ。もう何てゆーかちょっとアレだ。前の単行本の時エラソーなコト言ってた割にあんま進歩ない。まあ二年やそこいらで進歩だ変化だ協調性だとなんて、土台無理な話で、実は小学生時分からその言葉には縁が無いのだから仕方がない。

さて、本題だ。ドルフィン誌上でこの作品は「人を好きになるというコト」ってのをテーマにしたと云ったが、その答えがタイトルのレイブミーという言葉にある。人道主義やらフェミの人間からすりゃ言語道断なんだろうが、仕方がない。そう思っちゃってるんだから、このボクは。まあ聞いてくれ。

人を好きになるコトは多分そう悪いコトじゃないだろう。けれどそれはひどく一方的で恐ろしいまでに暴力的感情である様に思う。それは憎しみより愛が深いとか愛故に云々とかゆーたワケたコトでなく、そのベクトルは常に一つでしかないという意味においてだ。まんま暴力そのものと違わない一方的なコミュニケーションの手段に過ぎないというコトだ。人はエスパーやらニュータイプ(笑)やらではないので、絶対的且つ永続的な共感を得られないという事実に基づくなら、こう考えざるをえない。そうすると、社会で所謂恋愛と呼ばれている関係の大半はあくまで擬似的なソレ(あるいは自己欺瞞と云うべきか)であるとしかいいえないモノだし、恋愛そのもの自体が瞬間的なものでしか成立し得ない奇蹟的なシロモノであると云うより他はなくなる。

無人島で生まれ育ったヒトが自分を「人間」と知らないのは、そこに他者がいないからで、ヒトは他者を知り初めて「人間」たりえる。その最も端的な他者というのが恋愛におけるソレだ。そこに他者という自己を照らす光があり、それを求め近づくという行為が「好き」という感情だからだ。しかしながら、他者という光に照らし出された自分という影は、決してその光と交わるコトはなく、それが相方共に起こっているコトだとしても、あくまでそれは一方的な照らし合いでしかないモノで、互いを一つのものとしてあろうと思おうとも、ヒトの意識が合一するコトがない以上、また照らし合う光によって生まれる影は必ず二つなくてはならない(一つのものになっては他と自は消滅してしまう)というアンビバレンツが存在する以上、これが一方的なものではないと誰が云えようか。

そう、愛し合う二人は本質的には片恋でしかないのだ。(一般的な共通の認識という基盤の上での共感、あくまで洞察の域を出ないモノで、分かり合えたというレベルには程遠いのではないか?)その上、照らす光の強弱がどうであれ、映し出された影=自己は決して愉快なものとは限らない……

ところが基本的にはそうとしかありようのないハズのこの関係も、言語・習慣・思想・種族・生物学的間違いのワクを超えて成立してしまう場合がある。これこそが真の恋愛というものではないのか。(我思う故に我在りの全てが仮想現実として崩壊する以上、これすらもそうならない訳ではないが)

と、まあそこに行き着くまでは「好き」という一方的な思い込みを相手にぶつけるしかなく、それを相手にぶつけてもらうしかないというコトで、その意味でのレイブミーって訳。

ま、何にしてもレアなボク自身が出過ぎでプロ意識が欠如しているといういい見本にはなっている。さらにコレを芸風だと勘違いしちゃってる上に、マーケットの傾向ってのをハナツから無視しちまってるモンだから始末に負えない。バカ丸出しという奴だ。よく自分のマンガを映画に譲る人がいるが、ボクはそれを文学でやりたかったといったトコロで、結果はご覧の通り。ポンチ絵が何とか描ける程度のハンパ作家にゃ…ねってカンジ。商業的内容の高いモノやりたくないだなんてオマエは何様のつもりだってのな。百億万年早エっつーより、エロマンガ家のくせにアーティスト気取ってんじゃねーってトコだね、ヤレヤレだ。

まあ、でも売れそーなモン売れそーなモンって、売れセンアニパロ同人誌作り飛ばしてエツに入っちゃってるよーなノーダリン作家になっちゃうってのも(たとえ営業だとしても)どーだろうなあと思つてさ。

そしたら、今度は手から光線出しながら戦いをする巨乳のプリティガールガズバーンとイージーなフアックをキメてくれるマンガでお会いになれますか。……………なんちて。

TC
TSUKASA
C.O.M.I.C.S

レイプ

ミー

琴吹かづき

成年
コミック
司書房



9784812800089



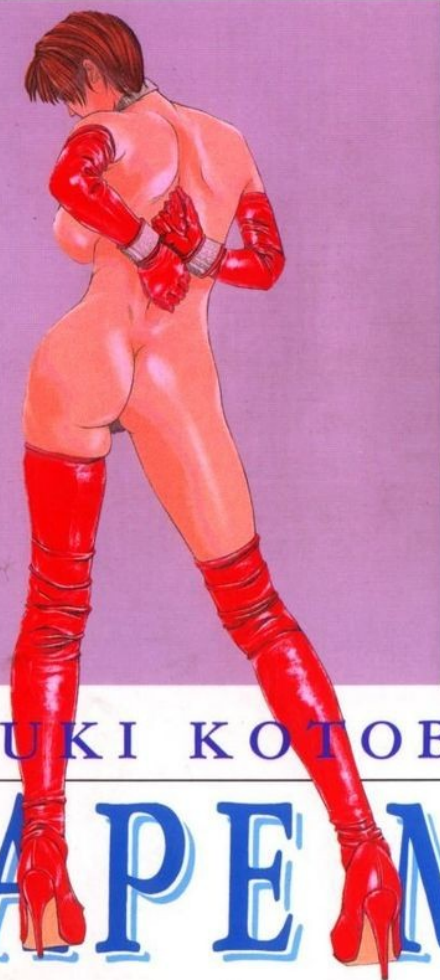
1919979009008

ISBN4-8128-0008-0

C9979 P900E

雑誌 53212-92

定価900円(本体874円)



KAZUKI KOTOBUKI
RAPE ME

TSUKASA COMICS
RAPE ME

1996年12月25日 第1刷発行
1997年2月5日 第3刷発行

著者—琴吹かづき
発行人—永野邦裕
編集人—山田俊
発行所—株式会社司書房
〒101 東京都千代田区三崎町2-11-7
トーエンビル別館 ☎03(3263)6791
印刷—技報堂

◇たとえば、何年か経ってある程度客観的に自分を見た結果、高嶺の花だと諦めたヒトと結婚出来て、友人達に羨ましがられたりしながら甘い新婚生活を送り、子供なんか出来ちゃった日にやまるで絵に描いたような幸福な家庭…ってそんな人生を歩む。そんな時、ある晩ふと昔の記憶がぼんやりと頭をかすめ、何とはなしに不安になる。そんな「ある記憶」になれるのならぼくは本望です…。

H-Kyoudai
scan